ISSN 1880-3067

大阪歴史博物館年報

令和３年度

大阪歴史博物館

令和４年10月

目　次

はじめに …… 1
展観事業 …… 1
資料収集 …… 6
資料のデータ整備・特別観覧・貸出し …… １０
教育普及事業 …… １１
学校連携事業 …… １２
ボランティア関連事業 …… １２
連携事業・大阪歴史博物館友の会との連携 …… １３
文化庁補助金による取り組み …… １５
展示等改修計画 …… １５
プロジェクト …… １５
新型コロナウイルス感染症対策 …… １５
広報宣伝活動 …… １５
刊行物 …… １６
調査研究活動 …… １６
受嘱・派遣・視察 …… ２２
令和３年度入場者数 …… ２２
利用規程 …… ２３
運営組織 …… ２４

はじめに

令和３年度も、令和２年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が継続する１年であった。年度当初の４月23日に緊急事態宣言が発出され、続く25日より６月20日まで臨時休館を余儀なくされた（休館日数57日）。その後も８月２日から９月30日まで再度緊急事態宣言が、また令和４年１月27日から３月21日までまん延防止等重点措置が発出され、これらの期間は休館に至らなかったものの、結果的に１年を通して諸活動を自粛せざるをえない状況が続くこととなった。

こうしたなかで来館者の回復は難しい状況にあったが、特別展「あやしい絵展」が好調だったこと、自主事業へと組み替えた謎解きゲームが人気を得たことなどが牽引役となり、常設展示入館者は前年度比143％となって年度目標をクリアすることができた。また休止となった事業をカバーするためにYouTubeによる展示解説動画の配信を充実させたほか、落ち込んだ収入を補いつつ今後に向け博物館活動を活性化させる目的からさまざまな新規事業に取り組み、始動させた。たとえば外部事業者との協働によるグッズ開発および公式オンラインショップの開設、新規利用者の開拓を目指した株式会社クラブツーリズムとの包括連携協定締結にもとづくオリジナル歴史ツアー「難波を目指した太子道へ」の催行、若年層へのアピール強化を図るためのご当地アイドルグループ「サクヤコノハナ」とのアンバサダー（れきはくメイト）契約締結が挙げられる。現代の博物館は多様な役割が望まれるのと並行して、体制の充実やスキルの向上を図っていかなければならない。その意味で民間企業をはじめさまざまな事例に学びながら、当館の人的・物的ポテンシャルの再確認と育成・活用に取り組んで行くことが大切である。

また３年度は展示改修について基本計画を策定し、報告書のとりまとめは令和４年５月末に完了した。その内容を踏まえつつ整備の具体化を進めていきたい。

大阪歴史博物館　館長　大澤研一

展観事業

常設展示

●10階：古代フロア

「難波宮の時代」ハイライトコースでは、奈良時代の後期難波宮大極殿を実寸大で再現するとともに、宮廷儀礼の再現映像を上映している。また映像の合間には、展望窓から実際の史跡公園を展望することができる。実物資料展示では、国の重要文化財に指定されている５世紀の船形埴輪や難波宮跡出土の遺物を展示している。

●９階：中世近世フロア

「大坂本願寺の時代」では中世大坂の町の様子を、大坂本願寺御影堂や町並みの復元模型、実物資料などから紹介している。「天下の台所の時代」ハイライトコースでは、江戸時代の大坂の景観を、中之島の蔵屋敷や船場の町並み、長堀の住友銅吹所、道頓堀の角の芝居といった復元模型や、壁面のグラフィックにより紹介している。実物資料展示では、大坂の町・産業・芸能・学問などに関する資料を紹介している。

●８階：「歴史を掘る」フロア・特集展示室

「歴史を掘る」フロアでは発掘現場の再現を行い、ワークシートやパズルなど、考古学について体験的に学べる場を提供している。特集展示室では、館蔵品のコレクション展示や大阪に関するテーマ展示などのミニ企画展を、１～２ヵ月程度の期間で実施している。

●７階：近代現代フロア

「大大阪の時代」ハイライトコースでは、近代都市・大阪の諸様相を、原寸大で再現した公設市場・町工場・「心ぶら」などから紹介している。実物資料展示では、政治・経済・くらし・文化に関するさまざまな資料を多方面から紹介している。

●難波宮跡　遺跡展示

博物館・NHK大阪放送会館の敷地には、前期難波宮の大規模な倉庫群（内裏西方官衙）があった。建物の地下には、発掘調査で明らかになった倉庫や塀などの遺構が保存されている。また博物館の敷地南側は遺跡公園として整備されており、発掘調査で見つかった古墳時代の大型倉庫群16棟のうち１棟を復元展示している。

●タイムカプセルEXPO’70

昭和45年（1970）日本万国博覧会が開催された際、毎日新聞社と松下電器産業（現パナソニック）により、当時の生活・文化を代表する2,098点の品々を収納したタイムカプセルを、大阪城天守閣前に埋設する事業が実施された。現地には２基が埋設されているが、当博物館の１階北東のエスカレーター奥に、同型品を展示している。

常設展示更新の状況

10・9・7階常設展示および1階エントランスにおいて、44件の展示替えを行った。各階を縦断するテーマ展示は、「近代化となにわの商い」（令和3年12月8日～令和4年1月31日）を開催した。

階	コーナー	内容	期間	テーマ
10	特設コーナー	難波の地下で発見された浜辺のムラとその遺物 ～船出遺跡発掘調査成果～	4月14日～6月21日	
10	特設コーナー	長原遺跡・石器作りの家	6月23日～9月20日	
10	特設コーナー	平野区 長原遺跡の平安時代の屋敷	9月22日～1月10日	
10	特設コーナー	コレクションの輝き 縄文時代の土偶	1月12日～	
10	難波京の風景	移動式竈と「厨」と書かれた墨書土器	10月7日～	
10	古代難波の序章	加耶土器・新羅土器	2月2日～	
10	百済尼寺	細工谷遺跡の和同開珎	12月8日～1月13日	近代化となにわの商い
9	並び立つ中世都市	大坂本願寺期の瓦	10月13日～12月13日	
9	並び立つ中世都市	大坂本願寺期の土器と陶磁器	12月15日～3月7日	
9	天下一の都市	豊臣期のすり鉢	3月9日～	
9	天下の台所	三井呉服店図絵馬	12月8日～1月31日	近代化となにわの商い
9	天下の台所	秋田藩米切手	12月8日～1月31日	近代化となにわの商い
9	まちの生活	大岡春卜	4月14日～6月14日	
9	まちの生活	住吉大社御田植祭	6月23日～7月26日	
9	まちの生活	宮里瓢遊の瓢箪コレクション	7月28日～9月20日	
9	まちの生活	木綿の生産と流通（「菱垣新綿番船川口出帆之図」、源五兵衛カラスキ、火消半纏など）	9月22日～11月15日	
9	まちの生活	出土資料でみる“まちの生活”（火鉢、灯火具、井戸瓦、食の道具など）	11月17日～1月31日	
9	まちの生活	雛人形	2月2日～3月14日	
9	まちの生活	三好長慶と戦国の「おおさか」	3月16日～	
9	町人の文化	おおさかの肖像画	1月5日～2月14日	
9	町人の文化	西山芳園の画業	2月16日～	
9	幕末・維新の大阪	五代友厚・小松帯刀書簡	12月8日～1月31日	近代化となにわの商い
7	近代都市の建設	建築設備	4月14日～8月30日	
7	近代都市の建設	浴場建築	9月1日～2月21日	
7	近代都市の建設	煉瓦	2月23日～7月11日	
7	写真パネルコーナー	近代大阪の橋梁	7月20日～	
7	美術工芸の諸相	藪明山工房での絵付と画譜	4月14日～10月25日	
7	美術工芸の諸相	雪亭の木彫作品	4月14日～7月18日	
7	美術工芸の諸相	人間国宝角谷一圭の茶の湯釜	7月20日～12月13日	
7	美術工芸の諸相	当館の文化財修復事業と選定保存技術保持者	7月20日～9月12日	
7	美術工芸の諸相	阪井俊政の刀装具	9月14日～3月28日	
7	美術工芸の諸相	近代大阪の知られざる工芸家	10月27日～	
7	美術工芸の諸相	銘仙のきもの	12月15日～3月14日	
7	美術工芸の諸相	藪明山の薩摩焼	3月16日～	
7	上方芸能の展開	生人形（池之坊、見世物番付）	6月20日～3月7日	
7	上方芸能の展開	大阪落語	3月9日～	
7	都市の民間信仰	牛の郷土玩具(伏見人形・俵牛、初瀬人形・俵牛、大阪天満宮白牛)	4月14日～6月21日	
7	都市の民間信仰	張子・神農の虎、小宝、宝船	12月26日～3月31日	
7	引札と広告	文明開化と引札（弘得社引札）	12月8日～1月24日	近代化となにわの商い
7	引札と広告	節分丸かぶり寿司ちらし	1月26日～3月31日	
7	映像コーナー	高津宮の初詣	1月5日～3月31日	
1	発掘成果ポスター展示	姿を現した秀吉の大坂城石垣	6月23日～10月11日	
1	発掘成果ポスター展示	JR森ノ宮駅の南側で弥生時代の木製農具が見つかりました	10月13日～2月7日	
1	発掘成果ポスター展示	難波出土伽耶・百済・新羅土器のふるさと	2月9日～	

特集展示

８階の特集展示室では、常設展の内容を掘り下げたものや季節に合わせた企画などを順次開催している。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展示解説は実施せず、展示解説動画をYouTubeで配信した。

●大阪市の新指定文化財ー平成28年度から令和２年度までー

会　　期：令和３年３月24日～５月17日
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため４月25日から臨時休館により公開中止
出 品 数：約30件（写真パネル含む）
担　　当：杉本厚典・島﨑未央(大阪歴史博物館)・植木久・佐藤 隆・田中裕子(大阪市教育委員会)
協　　力：大阪市教育委員会

平成28年度から令和２年度までの大阪市指定文化財を展示した。各分野の主な出品物は、天然記念物：三木茂博士収集メタセコイア化石標本〔大阪市立自然史博物館蔵〕(平成29年度指定)、考古資料：大坂城跡本丸内出土三葉葵文鬼瓦〔大阪市教育委員会蔵〕(平成29年度指定)、歴史資料：幕末大坂城湿板写真原板〔大阪城天守閣蔵〕(平成29年度指定）などで、芸能：上方漫才（平成28年度指定）横山ホットブラザーズ（横山アキラ氏・横山マコト氏・横山セツオ氏）の所用品等も展示した。

また、大阪市指定文化財のあゆみを紹介するために、大坂城下町跡（道修町１丁目）出土魚市場関連遺物〔大阪市教育委員会蔵〕(平成14年度)、木造男神坐像・木造男神半跏像　２躯（今宮戎神社）(平成25年度指定）のうち木造男神坐像を併せて展示した。

さらに３月26日に令和２年度の新指定文化財が発表され、大阪市の市電関係橋梁図面〔大阪市教育委員会蔵〕一括（原図854点、青図450点）のうち、「大正橋」の図面を４月14日から公開した。

●古代の都　難波京

会　　期：令和３年５月19日～７月12日
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため６月20日まで臨時休館により公開中止
出 品 数：約150点
担　　当：村元健一
共　　催：(一財）大阪市文化財協会

令和２年度に開催を予定しながら、新型コロナウイルス感染症拡大により中止となった「発掘された難波京」を再構成して開催した。難波京は都市大阪の原点ともいえる。本展では難波京にかかわる研究史を振り返るとともに、近年の発掘調査で明らかとなってきた難波京の様子を、出土品、写真パネルで紹介した。おもな展示資料は、住友銅吹所跡出土の舟形木製品、細工谷遺跡出土の煙突形土製品などである。

●豊臣秀吉ゆかりの品々

会　　期：令和３年７月14日～８月30日
出 品 数：36点
担　　当：谷口正樹

豊臣秀吉（1537-1598）は「戦国一の出世頭」として知られるが、大坂城を築き後の「都市おおさか」発展の基礎を作った、大阪の歴史を考えるうえでも欠かせない人物である。また、秀吉周辺の人物もみな個性的で根強い人気があり、彼らの活躍は物語などの形で、現在に至るまで親しまれている。

本展は、秀吉たちが遺した古文書や、彼らの物語をモチーフに作られた芸能・芸術関連資料、また近代の大阪豊国神社造立・大阪城再建関連資料といった、秀吉や彼の周辺人物にまつわる館蔵・寄託資料の一部を「豊臣秀吉ゆかりの品々」として展示した。

●大阪の太子信仰ー旭区太子橋の太子講資料ー

会　　期：令和３年９月１日～10月25日
出 品 数：24件
担　　当：澤井浩一

平成12年（2000）まで、大阪市旭区太子橋の民家で、聖徳太子を祀る太子講という行事が営まれ、かつては多くの参詣者が訪れ賑わったという。この地域は、江戸時代の天王寺庄村（現在の東淀川区と旭区の一部）にあたり、聖徳太子が四天王寺創建の地を求めてこの地を訪れたとする伝承が、周辺の村々とともに残されている。

本展示では、平成12年度に寄贈いただいた太子講資料のなかから、聖徳太子摂政像や聖徳太子絵伝の掛軸、版本、太子像を祀る祭具などを通じて、この地域での太子信仰の広がりを紹介した。

●新発見！なにわの考古学2021

会　　期：令和３年10月27日～ 12月20日
出 品 数：約350点
担　　当：安岡早穂
共　　催：(一財）大阪市文化財協会

令和２年（2020）度を中心に、一般財団法人大阪市文化財協会・大阪市教育委員会が実施した大阪市内の遺跡発掘調査の中から、主な調査成果を出土遺物や写真パネルを用いて紹介した。船出遺跡出土の朝鮮半島の土器(5世紀）や、難波宮跡出土の漆が付着した須恵器（7世紀)、豊臣期大坂城詰ノ丸の石垣（パネル展示）と金箔瓦（16世紀末～17世紀初頭)、野崎町所在遺跡出土の大量の陶磁器（17世紀末～18世紀初頭）など豊富な資料を展示した。また、関連行事として講演会「大阪の歴史を掘る2021」を11月20日に開催した。

●大大阪、その西へー湾岸・河口地域の変遷史ー

会　　期：令和３年12月22日～令和４年２月21日
出 品 数：66点
担　　当：船越幹央

明治維新後、工業化によって近代都市となった大阪市は、大正14年（1925)、第二次市域拡張を行って「大大阪」と呼ばれる巨大都市となった。その工業の中心地は都市の周縁部で、とりわけ市域西部の湾岸・河口地域には港湾や大規模工場が出現した。この地域は江戸時代の新田開発によって誕生したが、のち工業地域に変貌していく。現在の区では、おおむね西淀川区、此花区、港区、大正区、住之江区にあたる地域である。本展では、写真、絵画、地図、絵葉書などビジュアル資料を中心に展示して、地域の変遷を紹介することで大阪市西部の湾岸・河口地域の歩みについて理解を促した。また、１月５日から３月末まで、Twitterを活用して関連地域の現状写真などを73回にわたり発信した。

●新収品お披露目展

会　　期：令和４年２月23日～４月18日
出 品 数：33件
担　　当：俵 和馬

当館では開館以来、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く紹介し、理解を深めることを事業運

営の基本方針としている。この基本方針に沿った資料の収集は博物館活動の根幹でもあり、当館では毎年、市民の皆様からご寄贈いただいたさまざまな資料を保管し、研究や展示等に活用を図っている。本展示では、平成30年度、令和元年度、２年度に新たに館蔵品となった数多くのご寄贈品から未公開のものを中心に、33件の資料を紹介した。おもな展示資料は、花木小禽図　岸良筆（前田美希氏寄贈）、飛魚躍進図盆　島野三秋作（渡邊實氏寄贈）、三ツ山家住宅ステンドグラス（古川東子氏寄贈）など。

特別展

●第73回特別展
あやしい絵展

会　　期：令和３年７月３日～８月15日
※ただし、８月９日午後は台風のため臨時休館とした。
開館日数：39日
入場者数：47,801人
出 品 数：約150件
図　　録：Ａ４判、249頁
担　　当：岩佐伸一、李 陽浩、船越幹央
主　　催：大阪歴史博物館、毎日新聞社、MBSテレビ
協　　賛：DNP大日本印刷
出品協力：京都国立近代美術館

明治期に政治、経済、文化、思想といったあらゆる方面において西洋から制度、知識、技術がもたらされるなか、美術界では、西洋美術の技法の本格的な導入と発展、西洋の思想に裏打ちされたさまざまな表現が創出された。その中には、退廃的、妖艶といった美しいというだけの言葉では言い表すことのできない表現もあり、それらは美術界の一部からは批判を受ける一方、文学などをバックグラウンドとして大衆に広まっていったことも事実である。

本展では、幕末から昭和初期に制作された絵画や版画、雑誌や書籍を中心に、歌舞伎などの大衆娯楽や西洋からの影響を受けた文芸の存在、個性・自我の尊重、「新しい女性」の出現、社会の底辺層への眼差しなど時代の諸相と紐付けながら、こうした「あやしい」表現が生まれた背景に迫った。

◇おもな展示資料
- 月岡芳年《『魁題百撰相』のうち 辻弥兵衛盛昌》 明治元年（1868） 町田市立国際版画美術館蔵
- 安本亀八 《白瀧姫》 明治28年（1895）頃　桐生歴史文化資料館蔵
- 橘小夢 《安珍と清姫》 大正末頃　弥生美術館蔵
- 北野恒富 《淀君》 大正９年（1920） 耕三寺博物館蔵

◇関連イベント
- 講演会「絵の“あやしさ”を読み解く」 ７月31日
- 音声ガイドナビゲーター・平川大輔さん×学芸員トークショー　７月24日
- 学芸員によるスライドトーク　７月10日、７月17日

●第74回特別展
難波（なにわ）をうたうー万葉集と考古学ー

会　　期：令和３年 10月２日～12月５日
開館日数：56日
入場者数：16,026人
出 品 数：約200点
展示ガイドブック：Ａ５判、124頁
担　　当：杉本厚典、飯田直樹、李 陽浩、安岡早穂、松本百合子
主　　催：大阪歴史博物館、（一財）大阪市文化財協会

日本最古の歌集『万葉集』は大和（奈良）や東国に次いで難波（大阪）の歌が多く、難波は万葉人のもう一つのふるさとと言える。本展では万葉集をひも解きながら、発掘調査で明らかにされた建物跡や祭祀の場、当時の暮らしや儀礼で用いられていた様々な出土品を手がかりにして古代難波の魅力に迫った。

展示では、日本最古の万葉仮名を記した「はるくさ」木簡（難波宮跡出土）のほか、万葉歌が墨書された木簡（レプリカ）を、万葉集の古写本と共に展示し、飛鳥・奈良時代の歌文化の基本資料を紹介した。そして藤原宇合によって「昔こそ難波田舎と言はれけめ　今は都引き都びにけり」と詠まれた奈良時代の難波宮・難波京について、豊富な出土資料をもとに実像を探った。さらに、天然痘が大流行した当時のまじないに使われた人面墨画土器や木製形代などに触れながら、幸くあれと願った万葉人の祈りを紹介し、新型コロナウイルス感染症が猛威をふるう現代と重ね合わせた。

◇おもな展示資料
- 大阪市指定文化財「はるくさ」木簡（万葉仮名文木簡）飛鳥時代　難波宮跡　大阪市教育委員会蔵・大阪市文化財協会保管
- 「あきはぎ」木簡（レプリカ）・彩釉山水陶器　奈良時代　馬場南遺跡　木津川市教育委員会蔵
- 重要文化財　万葉集巻十六　尼崎本　平安時代末～鎌倉時代初　京都大学附属図書館蔵
- 重圏文鬼瓦　奈良時代　難波宮跡　大阪市教育委員会蔵・大阪市文化財協会保管
- 古代の漁具　飛鳥～奈良時代　遠里小野遺跡　大阪市教育委員会蔵・大阪市文化財協会保管
- イスラム陶器・墨書土器「皇甫東朝」 西大寺跡　奈良市教育委員会蔵

◇関連イベント等
- 講演会「万葉集・古代史の中の難波」 10月17日
- 学芸員によるスライドトーク　10月８日、10月31日、11月６日、11月28日
- 当館Twitterフォローで無料入館キャンペーン　11日３日・６日・７日、Twitterによる土馬の愛称募集　11月３日～12月５日
- 特別展を楽しもう「人面土器をさがせ！」11月21日・23日・27日

●特別企画展

動物絵画はお家芸　ー大坂・森派の絵描きたちー

会　　期：令和３年４月３日～
　　５月17日
※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため４月25日から臨時休館により公開中止
開館日数：39日（当初予定）／19日（予定変更後）
入場者数：2,582人
出 品 数：約50件
担　　当：岩佐伸一、安岡早穂、澤井浩一
主　　催：大阪歴史博物館

江戸時代の大坂で名高い絵師のひとりに、森 狙仙がおり、彼は「猿描き狙仙」ともいわれ、リアルな動物画を得意とした。狙仙には二人の兄、陽信と周峰がおり、当時は著名な絵師であった。本展では、狙仙とその兄、また彼らの次世代以降の画家、森 徹山や一鳳らの作品も取り上げ、動物絵画を多く描いた森派とも呼ばれる一派の画業を振り返った。あわせて松本奉時が描く蝦蟇図、戯画を得意とした耳鳥斎、虎を得意とした岸派の虎図、鷹図を描いた戦国大名土岐氏の末裔土岐頼高の鷹図など一芸に秀でた人々の絵画も紹介した。

当館では、令和２年２月26日から開催した特別展「猿描き狙仙三兄弟」が、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため３日間で休止・閉幕となったため、本展は特別展「猿描き狙仙三兄弟」に出品された作品をもとに再構成した展覧会とした。

◇主な展示資料
- 猿猴図　森 狙仙筆　中井竹山賛　天明７年（1787）　大阪歴史博物館蔵
- 諫鼓鶏図　森 陽信筆　江戸時代（18～19世紀）　個人蔵
- 蝦蟇仙人図　森 周峰筆　江戸時代（18～19世紀）　個人蔵
- 蝦蟇図　松本奉時筆　畠中観斎賛　江戸時代（18世紀）　個人蔵

◇関連イベント等
- 学芸員によるスライドショー　４月10日、４月24日
- 動物おみくじ

●特別企画展

大阪町めぐり　喜連

会　　期：令和４年１月26日～
　　３月21日
開館日数：48日
入場者数：9,920名
出 品 数：62件
担　　当：豆谷浩之、阿部文和、岡本 健、船越幹央
主　　催：大阪歴史博物館・喜連村史の会

この展覧会は、大阪市内の地域にスポットを当てた展示企画「大阪町めぐり」シリーズの一環として、地域住民を中心に活動している喜連村史の会との共催により実施した。喜連村史の会は、地域にかかわるイベントの開催や歴史資料の掘り起こし、古文書読解のための学習会などを行っている団体である。本展は、そうした成果の発表の場としても位置づけた。

「喜連」という地名は、万葉集に見える「伎人郷」に由来するとされ、古代以前から特徴ある歴史を刻んできた地域である。展覧会の導入部では、摂津国と河内国の境界に位置する立地や、地元に伝わる地域の歴史について紹介した。

第１章では、中世以前の時代について、発掘成果を中心とした展示を行った。ここでは、弥生時代終末期から古墳時代初頭の方形周溝墓、平安時代から室町時代にかけての集落跡、室町時代の墳墓堂跡の資料を取り上げた。

第２章では、近世の喜連村について、古文書や絵図類を中心に展示した。展示資料のうち、東西約５m、南北約1.8mにおよぶ巨大な村絵図は、細かな地名などの多様な文字情報が書き込まれており、地名の解釈から地域の歴史を解明しようとする喜連村史の会の研究活動を、大きく進めることになった資料である。また、18世紀初頭の大和川付け替えに端を発する用水をめぐる問題について、支配関係の違いを乗り越えて、周辺村落との間で奔走した喜連村住民の取り組みに関する古文書を展示した。

第３章では、村内の寺社が所蔵する代表的な資料を展示し、中世以前に遡る来歴を紹介するとともに、近世における住民との関係の変遷についても触れた。

また、休憩コーナーでは、喜連村史の会のさまざまな取り組みを紹介するビデオを上映した。

◇おもな展示資料
- 喜連西遺跡の方形周溝墓出土資料　弥生時代終末期～古墳時代初頭　大阪市教育委員会蔵・大阪市文化財協会保管
- 伝 善法寺出土鬼瓦　室町時代　個人蔵
- 喜連東遺跡の中世墳墓出土資料　平安時代後期～室町時代　大阪市教育委員会蔵・大阪市文化財協会保管
- 喜連村大絵図　文化13年（1816）　個人蔵
- 喜連村年貢割付状　寛永２年（1625）　個人蔵
- 絹本著色紅頗梨阿弥陀如来画像　鎌倉時代末～室町時代初期（14世紀）　法明寺蔵

◇関連イベント
- 学芸員によるスライドトーク　２月５日、３月６日

資料収集

令和３年度は、寄贈によって新たに491件546点の館蔵品を加えた。内容は一覧の通りである。これらの収集資料にあたっては、外部に依頼した委員による資料収集委員会を開催して収集審査を行った。

●令和３年度の収蔵資料点数

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	42	0	0	42
美術	60	0	0	60
考古	0	0	0	0
民俗	0	0	0	0
芸能	428	0	0	428
建築	16	0	0	16
	546	0	0	546

●館蔵品総点数（令和４年３月31日現在）

部門	寄贈	購入	移管	合計
歴史	82,380	9,143	86	91,609
美術	9,234	1,648	3	10,885
考古	7,100	4,765	6,178	18,043
民俗	4,839	2,485	2	7,326
芸能	11,524	1,029	3	12,556
建築	6,223	0	27	6,250
	121,300	19,070	6,299	146,669

燻蒸

博物館の新規受入資料に対する各種害虫及びカビの駆除のために、燻蒸庫燻蒸を７月、10月、３月の計３回実施した。また、７月から８月に収蔵資料の保全のために、収蔵庫内にて生物（歩行・飛翔虫）の生息状況並びに空中浮遊・付着菌類の捕獲・採集調査と目視調査を実施した。

大阪歴史博物館資料収集方針

大阪は、日本の歴史のなかで、古代から現代にいたるまで重要な役割を果たしてきた都市である。難波宮の宮殿が営まれた古代、大坂本願寺の寺内町がつくられた中世、天下の台所として繁栄した近世、そして工業都市として発展した近代・現代と多様な展開をみせた。

大阪歴史博物館は、このような「都市おおさか」の歴史を紹介する博物館であり、郷土大阪を中心とする地域の歴史と文化について広く市民に紹介し、理解を深めることを事業運営の基本方針としている。こうした趣旨に沿った資料収集は、失われゆく資料の保存・研究の観点を含めて重要なものである。よって、以下の条項に基づき博物館資料を収集する。

記

1．難波宮とその研究史を理解する上で重要な資料を収集する。
2．大阪の歴史と文化の発展を理解する上で重要な有形文化財、およびその理解を高める比較資料を収集する。
3．大阪にとって芸術上価値の高い資料、およびその理解を高める比較資料を収集する。
4．大阪に暮らす人々の生活の推移を理解するために必要な有形・無形文化財を収集する。
5．大阪の景観、人物、無形文化財等の写真、映像などの資料を収集する。

新収館蔵資料紹介

木彫根付「蝦蟇仙人」　松田亮長作

渡邊正憲氏寄贈

松田亮長は飛騨を代表する根付師。蛙や蛇などの動物を得意としたことで知られる。本作品は、不敵な顔つきをしながら右膝に乗せた蛙を見守る蝦蟇仙人を彫り上げた根付。根付としての機能を保ちながらも、そこに表された人物の眼差しは優しさをたたえており、実際以上の大きさを感じさせる。本作は名工である亮長の中でも代表作といえる一品である。（写真：森 幸一撮影）

新収館蔵資料一覧

寄贈

●歴史

◇西垣真子氏寄贈資料

近江町会議所詰書物入（部分）	1 点

◇大西 保氏寄贈資料

加古川辰蔵立ち姿写真	1 点
横綱（男女ノ川、安藝ノ海、照國、前田山）手形	4 点

◇福永和代氏寄贈資料

大手前憲兵分隊告知板	1 点

◇宮本 博氏寄贈資料

戦後大阪風景写真	21 点

◇西野信幸氏寄贈資料

綱敷天神関係書類入紙箱	1 点
社格昇進奉祝祭等資金領収証綴	1 点
御営繕費寄附者芳名簿　佐藤町之部	1 点
夏祭渡御費寄附名簿　佐藤町・大深町	1 点
夏祭渡御祭典費寄名簿	1 点
関東震災義捐金芳名　佐藤町	1 点
渡御祭典費寄附者芳名簿	1 点
渡御祭典費寄附者芳名簿　佐藤町	1 点
夏祭々典費寄附芳名簿	2 点
寄附者名簿	1 点
綱敷天神社渡御祭典費寄附者芳名簿　佐藤町之部	1 点
昇格奉祝祭菅公千廿五年祭例祭并記念事業御手伝名簿	1 点
夏祭々典委員嘱託状	1 点

●美術

◇小川千惠氏寄贈資料

黒地薬玉文着物	1 点
薄紅地菖蒲牡丹文三ツ身着物	1 点
赤地鶴文五ツ身着物	1 点
流水に葦燕文様単衣着物	1 点
流水に橋草花文様襦袢	1 点
赤地半襦袢	1 点
黒地紫花文様道行コート	1 点
赤紫地亀甲文様袷着物	1 点
紫地菊花文様袷着物	1 点
多摩結城御召着物	1 点
男児用着物類	4 点
紫地桧扇文様道行コート	1 点
薄茶地羊歯文様絞羽織	1 点
幾何学文様銘仙羽織	1 点
赤地長襦袢	1 点
紹地長襦袢	1 点

◇小川佐紀氏寄贈資料

鳳凰菊花文様丸帯	1 点
七宝繋菊花文様名古屋帯	1 点
紹地撫子文様名古屋帯	1 点
青海波扇面舟鼓文様袋帯	1 点
舟菊萩牡丹文様染名古屋帯	1 点
椿文様絞名古屋帯	1 点
薔薇撫子文様刺繍名古屋帯	1 点
四君子丸紋様名古屋帯	1 点
市松文様名古屋帯	1 点
波文様作帯	1 点
七宝繋文様作帯	1 点
鳳凰撫子鼓文様作帯	1 点
帯揚	5 点
反物	3 点
関連写真	10 点
ノート	1 点

◇渡邊正憲氏寄贈資料

木彫 鶴の舞根付　舟月作	1 点
木彫 猿根付　内藤豊昌作	1 点
木彫根付「蝦蟇仙人」 松田亮長作	1 点
蒔絵箱根付「古墨」 柴田是真作	1 点
木彫根付「猪」 齋藤美洲作	1 点
鹿角彫根付「家紋獏」 藤井安剛作	1 点
鹿角彫根付「元興寺」 藤井安剛作	1 点
陶根付「猿歌舞伎猿之助六」 北澤泉水作	1 点
陶根付「猿歌舞伎立女形」 北澤泉水作	1 点
白檀一刀彫根付「午」 津田亮佳作	1 点

●建築

◇宗教法人心光寺代表役員山名俊光氏寄贈

心光寺山門破風板	2 点

◇石原 実氏寄贈

石原ビルディングエレベータ表示板	2 点

◇渡邊登美氏寄贈

渡邊家住宅玄関タイル	13 点

●芸能

◇株式会社つぼ善商店寄贈

「陶業時報」第一～四百五十三号綴	20 点
「陶業時報」端本綴（第四百四十三～四百五十二号）	1 点
「陶業時報」端本綴（第二百四十一～三百六十九号）	1 点
「陶業時報」端本綴（第三百七十一～四百四十八号）	1 点
「陶業時報」端本・断簡綴（第二百九十八～四百五十三号）	1 点

◇その他寄贈

SPレコード 長唄「二人椀久」(一)～(六)	3 点
SPレコード 長唄「楠公」(一)～(八)	4 点
SPレコード 長唄「元禄花見踊」(一)～(四)	2 点
SPレコード 長唄稽古用音譜「元禄花見踊」(一)～(五)	5 点
SPレコード 長唄「新曲浦島」(一)～(六)	3 点
SPレコード 長唄「四季の山姥」(一)～(六)	3 点
SPレコード 長唄「越後獅子」(一)～(六)	3 点
SPレコード 長唄稽古用音譜「越後獅子」(一)～(五)	5 点

SPレコード 長唄「新曲浦島」(一)～(六) 3点
SPレコード 長唄稽古用音譜「都鳥」(一)～(三) 3点
SPレコード 長唄稽古用音譜「都鳥」(一)～(三) 3点
SPレコード 長唄「勧進帳」(一)～(八) 4点
SPレコード 長唄「勧進帳」(一)～(十一)「元禄花見踊」 6点
SPレコード 清元「保名」(一)～(六) 3点
SPレコード 清元「青海波」(一)～(八) 4点
SPレコード 清元「北州」(一)～(六) 3点
SPレコード 清元「喜撰法師」(一)～(十) 5点
SPレコード 長唄「綱舘」(一)～(八) 4点
SPレコード 長唄「京鹿子娘道成寺」(一)～(六) 3点
SPレコード 長唄「まかしよ」(一)～(四) 2点
SPレコード 長唄「今様望月」(一)～(四) 2点
SPレコード 長唄「橋弁慶」(一)～(四) 2点
SPレコード 長唄「岸の柳」(一)～(三)・替手 2点
SPレコード 長唄「菖蒲浴衣」(一)～(四) 2点
SPレコード 長唄稽古用音譜「吾妻八景」(一)～(六) 3点
SPレコード 長唄稽古用音譜
「吾妻八景」三絃伴奏 (一)～(六) 3点
SPレコード 長唄「老松」(一)～(六) 3点
SPレコード 長唄「老松」(一)～(六) 3点
SPレコード 長唄稽古用音譜「蓬莱」(一)～(三) 3点
SPレコード 長唄稽古用音譜「蓬莱」(一)～(三) 3点
SPレコード 長唄「外記猿」(一)～(六) 3点
SPレコード 長唄「君の庭」(一)～(四) 2点
SPレコード 長唄「傾城」(一) ～ (四) 2点
SPレコード 常磐津「子宝三番叟」(一)～(四) 2点
SPレコード 常磐津「宗清」(一)～(六) 3点
SPレコード 常磐津「将門」(一)～(四) 2点
SPレコード 常磐津「戻橋」(一)～(四) 2点
SPレコード 常磐津「山姥」(一)～(四) 2点
SPレコード 常磐津「松島」(一)～(六) 3点
SPレコード 長唄「多摩川」(一)～(六) 3点
SPレコード 長唄「多摩川」(一)～(四) 2点
SPレコード 長唄「鶴亀」(一)～(六) 3点
SPレコード 長唄「鶴亀」(一)～(六) 3点
SPレコード 長唄稽古用音譜「鶴亀」(一)～(五) 5点
SPレコード 長唄「紀文大尽」(一)～(八) 4点
SPレコード 長唄「紀文大尽」(一)～(八) 4点
SPレコード 長唄「鞍馬山」(一)～(六) 3点
SPレコード 長唄「小鍛冶」(一)～(四) 2点
SPレコード 長唄「小鍛冶」(一)～(四) 2点
SPレコード 稽古用長唄「都鳥」(上)(下) 1点
SPレコード 稽古用長唄「末広がり」 1点
SPレコード 長唄「松の緑」(上)(下) 1点
SPレコード 長唄「松の緑」(上)(下) 1点
SPレコード 長唄「松の緑」(上)(下) 1点
SPレコード 長唄稽古用音譜「松の緑」(上)(下) 2点
SPレコード 長唄「雛鶴三番叟」(一)～(六) 3点
SPレコード 長唄稽古用音譜「花の友」(一)～(四) 4点
SPレコード 長唄「秋色種」(一)～(六) 3点
SPレコード 長唄「秋色種」(一)～(六) 3点
SPレコード 長唄稽古用音譜「秋色種」(一)～(七) 7点
SPレコード 常磐津「乗合船」(一)～(四) 2点
SPレコード 掛合義太夫「千本桜道行」(一)～(六) 3点
SPレコード 清元「三千歳」(一)～(六) 3点
SPレコード 清元「三千歳」(一)～(六) 3点
SPレコード 清元「梅の春」(一)～(六) 3点
SPレコード 清元「吉原雀」(一)～(六) 3点
SPレコード 清元「神田祭」(一)～(四) 2点
SPレコード 清元「十六夜清心」(一)～(八) 4点
SPレコード 清元「かさね」(一)～(十四) 7点
SPレコード 清元「文屋」(一)～(六) 3点
SPレコード 清元「夕霧」(一)～(十) 5点
SPレコード 落語「阿弥陀池」(一)～(四) 2点
SPレコード 落語「お伊勢詣り」(一)～(四) 2点
SPレコード 落語「二日酔ひ」(一)～(四) 2点
SPレコード 落語「無い物買ひ」(一)～(四) 1点
SPレコード 落語「続借家怪談」(一)～(四) 2点
SPレコード 落語「米あげいかき」(一)～(四) 2点
SPレコード 落語「お目見得」(一)～(四) 2点
SPレコード 落語「ヘッツイ盗人」(一)～(四) 2点
SPレコード 落語「按摩炬燵」(一)～(四) 2点
SPレコード 落語「猪買ひ」(一)～(四) 2点
SPレコード 落語「豆屋」(一)～(四) 2点
SPレコード 落語「めがね屋」(一)～(四) 2点
SPレコード 落語「寄合酒」(一)～(四) 2点
SPレコード 落語「上方見物」(一)～(四) 2点
SPレコード 落語「チリトテチン」(一)～(四) 2点
SPレコード 落語「蜜柑売」(一)～(四) 2点
SPレコード 落語「人形買ひ」(三)(四) 1点
SPレコード 落語「小言家主」正岡容作 (上)(下) 1点
SPレコード 艶話「海千山千」(上)(下) 1点
SPレコード 艶話「吉原の一夜」(一)(二) 1点
SPレコード 漫談「真夜中の二時」(上)(下) 1点
SPレコード 番謡「小督」(一)～(十一) 謡曲「難波」 6点
SPレコード 番謡「田村」(一)～(十一) 謡曲「箙」 6点
SPレコード 番謡「竹生島」(三)～(八) 3点
SPレコード 謡曲「熊野」(一)～(十八) 9点
SPレコード 謡曲「百萬」(一)～(十二) 6点
SPレコード 謡曲「俊寛」(一)～(十二) 6点
SPレコード 謡曲「羽衣」(上)(下) 1点
SPレコード 謡曲「小袖蘇我」(一)～(十) 5点
SPレコード 謡曲「藤戸」(五)～(十) 3点
SPレコード 謡曲「鞍馬天狗」(一)～(十) 5点
SPレコード 謡曲「船弁慶」(一)～(八) 4点
SPレコード 謡曲「船弁慶」(五)(六) 1点
SPレコード 番謡「橋弁慶」(一)～(五)「猩々」(一)～(三) 4点
SPレコード 謡曲「葵の上」(一)～(八) 4点
SPレコード 謡曲「羽衣」(一)～(十) 5点
SPレコード 謡曲「遊行柳」(一)～(十六) 8点
SPレコード 謡曲「班女」(一)～(十二) 6点
SPレコード 謡曲「弱法師」(一)～(十二) 6点
SPレコード 謡曲「鉢木」(一)～(十八) 9点
SPレコード 吹奏楽「森の鍛冶屋」「森の水車」 1点
SPレコード 小唄「奴さん」「沖のくらいのに」 1点

SPレコード 小唄「トツチリトン」「さのさ」 1点
SPレコード 小唄「鬢ほつ」「木遣り」 1点
SPレコード 小唄「青柳」「都々逸」 1点
SPレコード 小唄「お座附小唄集」(上)(下) 1点
SPレコード 小唄「鬢ほつ」「しよんがいな」 1点
SPレコード 俚謡「木曽節」小唄「米山甚句」 1点
SPレコード 小唄「秋草・腹の立つとき」
「萩桔梗・とめても帰る」 1点
SPレコード 江戸小唄「緋鹿の子・伊勢詣り・
お医者さんでも」「二人して・潮来出島」 1点
SPレコード 小唄「五万石」「さつまさ」 1点
SPレコード 小唄「鬢ほつ」「木遣くづし」 1点
SPレコード 小唄「三日月」「夕立」 1点
SPレコード 小唄「清元くづし・空さだめなき」
「逢ひみての・ひぢ枕」 1点
SPレコード 小唄「潮来出島」「わがもの」 1点
SPレコード 小唄「五月雨」「ほとゝぎす(三下り)・草の葉」 1点
SPレコード 小唄「夕暮」「よりをもどして」 1点
SPレコード 小唄「二上り新内」「花筏」 1点
SPレコード 小唄「春風」「桜見よとて」 1点
SPレコード 小唄「我もの」「わしが思ひ」 1点
SPレコード 小唄「雪のあした・よりをもどして」
「こゝろえて」 1点
SPレコード 小唄「香水・浮気同志」「文弥くづし」 1点
SPレコード 端唄「浅くとも」「縁かいな」 1点
SPレコード 端唄「梅にも春」「春雨」 1点
SPレコード 琴伴奏端唄「宇治茶」「夏は蛍」 1点
SPレコード 端唄「秋の夜」「薄墨」 1点
SPレコード 端唄「京の四季」「黒髪」作栄 1点
SPレコード 端唄「宇治は茶所」「寝ながら・浮草」 1点
SPレコード 端唄「梅にも春」「春雨」 1点
SPレコード 端唄「二上り新内」「館山」 1点
SPレコード 能楽囃子「中の舞」(上)(下) 1点
SPレコード 清元「三千歳」(一)(二) 1点
SPレコード 清元「三千歳」(一)(二) 1点
SPレコード 長唄「新曲浦島」(一)(二) 1点
SPレコード 長唄「綱館」(一)(二) 1点
SPレコード 長唄「多摩川」(一)(二) 1点
SPレコード 長唄「賤機帯」(一)(二) 1点
SPレコード 常磐津「乗合船」(一)(二) 1点
SPレコード 常磐津「松島」(一)(二) 1点
SPレコード 俚謡「正調追分(忍路高島)」
前唄・後送り／本唄 1点
SPレコード 俗曲「炭坑節」 1点
SPレコード 端唄「三階節」「伊那節」 1点
SPレコード 端唄「春雨」「から傘」 1点
SPレコード 芝居囃子「鞍馬山暗闘」(上)(下) 1点
SPレコード 新小唄「峠三里」／流行歌「山は叫ぶ」 1点
SPレコード 和洋合奏「花籠」(上)(下) 1点
SPレコード 管絃楽支那楽「唐牡丹」(上)(下) 1点
SPレコード 管絃楽「小鳥屋の店」「デザート・キャラバン」 1点
SPレコード 流行歌「喜代美小原節」
ダンスミュヂック「鹿児島小原節」 1点
SPレコード 管絃楽「支那音曲玉手箱」(第一)(第二) 1点
SPレコード 木琴独奏「桃太郎」「小馬」 1点
SPレコード 吹奏楽「軍艦行進曲」「敷島艦行進曲」 1点
SPレコード 吹奏楽「雛鶴三番叟」「小鍛冶」 1点
SPレコード 吹奏楽「六段」(その一)(その二) 1点
SPレコード 吹奏楽「村の鍛冶屋」「ダニューブ河の漣」 1点
SPレコード 見本盤(洋楽) 1点

館蔵品の修復

令和３年度に修復した資料は次の通りである（１件１点)。

名称　染織品（茶地松皮菱取りに秋草文刺繍小袖）
数量　１点

修復概要　作品を解体し、劣化した経糸により断裂が生じた裂の裏面から補修裂を補修糸でかがりつけて補強した。刺繍についても、弱った糸が外れないよう留めつけ作業をおこなった。

資料のデータ整備・特別観覧・貸出し

データ整備

●マイクロフィルム・写真撮影

本年度は下記の館蔵資料について撮影を行った。

(1) マイクロフィルム撮影

- 「伊賀屋四郎兵衛文書」ほか2,329コマのマイクロフィルムを電子化した。

(2) 写真撮影

- 158点（考古資料７点、歴史資料５点、美術資料126点、建築資料20点）

●図書の受入（令和４年３月31日現在）

今年は新たに3,393件の新規登録を行った。内訳は、国内外の関係機関・個人からの寄贈2,808件、特別観覧献本39件、移管180件、購入320件、自主刊行物の登録46件であった。蔵書は当館２階の学習情報センター「なにわ歴史塾」において閲覧サービスを行っている。

特別観覧

令和３年度は撮影13件（108点）、実測４件（63点）、閲覧16件（150点）、印画０件（0点）、掲載・掲出131件（319点）、放映36件（84点）、デジタルオンデマンド38件（69点）の計238件（865点）の特別観覧があった。

※（　）内は資料点数。件数・点数ともに重複を含む。

館蔵資料の貸出し

令和３年度に他機関の貸出希望を受諾した資料数は下に掲げた表の通りである（17件111点）。

申請者	数	展覧会名称	貸出期間
公益財団法人　香雪美術館	6	企画展「上方界隈、絵師済々Ⅱ　－蕪村・呉春と大坂画壇」	令和３年６月21日～令和３年８月25日
大阪市旭区役所市民協働課	19	大阪市立旭区民センター常設展示	令和３年４月１日～令和６年３月31日
大阪市立美術館	1	千四百年御聖忌記念　特別展「聖徳太子　日出づる処の天子」	令和３年８月20日～令和３年11月３日
松江歴史館	1	特別展「戦国の世を馳せた武将　堀尾吉靖」	令和３年８月30日～令和３年11月30日
九州国立博物館	1	特別展「海幸山幸－祈りと恵みの風景－」	令和３年９月16日～令和３年12月15日
和泉市久保惣記念美術館	3	特別展「土佐派と住吉派　其の二－やまと絵の展開と流派の個性－」	令和３年８月６日～令和３年11月21日
彦根城博物館	12	特別展「日本の刀装－刀を飾る技と美」	令和３年10月14日～令和３年12月９日
池田市立歴史民俗資料館	1	特別展「古絵図に何がかかれている？－絵図にみる池田市域－」	令和３年10月６日～令和３年12月22日
山梨県立考古博物館	2	特別展「甲府城のすべて－石垣と瓦の考古学－」	令和３年９月14日～令和３年11月30日
茶道資料館	8	新春展「やきもの巡り②　大阪・兵庫編」	令和３年12月21日～令和４年４月16日
貝塚市教育委員会	7	企画展「貝塚八城めぐり－守護代・根来寺・雑賀衆・百姓の城－」	令和３年11月８日～令和３年12月22日
平塚市美術館・足立市立美術館・高岡市美術館・NHKエンタープライズ中部支社	1	「リアル（写実）のゆくえ現代の作家たち」展	令和４年３月16日～令和４年９月上旬
高槻市立しろあと歴史館	7	特別展「日本古来の伝統文化　将棋」	令和３年10月５日～令和３年12月15日
豊田市郷土資料館	1	特別展「『新修豊田市史』通史編刊行記念　はじめてのとよた史」	令和４年１月14日～令和４年３月25日
京都国立近代美術館	30	「サロン！雅と俗－京の大家と知られざる大坂画壇」	令和４年３月11日～令和４年５月25日
大阪中之島美術館	8	開館記念展「みんなのまち　大阪の肖像」	令和４年３月７日～令和４年７月下旬
多治見市モザイクタイルミュージアム	3	企画展「「タイル」までのプロローグ」	令和４年３月22日～令和４年９月上旬

教育普及事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、企画、計画していた事業の一部を中止した。

講座・見学会

●なにわ歴博講座

12月５日　「戦国期四天王寺の瓦職人」岡本 健　42名
12月12日　「戦国の重要戦略拠点・木津－大坂本願寺戦争と大坂の陣－」大澤研一　85名
12月19日　「安芸の殿様、大坂へ行く－『毛利輝元上洛日記』からみる豊臣時代の大坂－」谷口正樹　42名
以上３回は「大阪の戦国を考える」シリーズ
１月23日　「動物の霊力－おおさかの民間信仰から－」俵 和馬　37名
２月27日　「大阪環状線から見た近代大阪」船越幹央　118名
３月20日　「タイルとおおさか－日本における「タイル」名称統一100周年－」阿部文和　47名

●館長講演会

11月３日　「細川ガラシャと大坂」大澤研一　90名

●「なにわの日」講演会（大阪市文化財協会と共催）

７月28日　「和気清麻呂の三国川（神崎川）・淀川治水事業」南 秀雄（大阪市文化財協会）、「難波の考古学と万葉集」杉本厚典　112名

●金曜歴史講座（大阪市文化財協会と共催）

１月21日　「前期難波宮の朝堂院を考える」積山 洋（大阪市文化財協会）　55名
２月18日　「秀吉晩年の大堤と弥生時代後期の貯木池」趙 哲済（大阪市文化財協会）　74名
３月18日　「後期難波宮－構造の復元と他宮との比較－」高橋 工（大阪市文化財協会）　70名

●大阪府教職員互助組合歴史セミナー

11月13日　「難波をうたう－万葉集と考古学－」杉本厚典　81名

●同志社女子大学講座（同志社女子大学と共催）

「人に寄り添う心　～難波と京における歩み～」
３月12日　「同志社と看護、そのはじまりをたどる」岡山寧子（同志社女子大学　看護学部看護学科 特任教授）、「近代大阪における福祉と医療」飯田直樹　54名

●考古学入門講座「法円坂倉庫群と世界遺産百舌鳥・古市古墳群を歩く」

４月18日　「法円坂倉庫群から難波堀江へ」　９名
４月24日　「古市古墳群と高屋城を歩く」　10名
５月２日　「大阪湾を望む巨大古墳群、百舌鳥古墳群を歩く」＜開催中止＞

●復活企画 考古学入門講座「法円坂倉庫群と世界遺産百舌鳥・古市古墳群を歩く」

12月25日　「大阪湾を望む巨大古墳群、百舌鳥古墳群を歩く」　19名

特別展・特集展示等関連の講演会・展示解説

◇特別企画展「動物絵画はお家芸－大坂・森派の絵描きたち－」
- 学芸員によるスライドショー　４月10日　18名、４月24日　22名

◇特別展「あやしい絵展」
- 学芸員によるスライドトーク　７月10日　76名、７月17日　81名
- 音声ガイドナビゲーター・平川大輔さん×学芸員トークショー
  平川大輔氏（声優・あやしい絵展音声ガイドナビゲーター）、船越幹央　７月24日　126名
- 講演会「絵の“あやしさ”を読み解く」　中村麗子氏（東京国立近代美術館主任研究員）　７月31日　85名

◇特別展「難波をうたう－万葉集と考古学－」
- 講演会「万葉集・古代史の中の難波」
  「万葉歌にみる呪術と祈り－難波を軸に－」井上さやか氏（奈良県立万葉文化館　指導研究員）、「疫病と古代難波」栄原永遠男（大阪歴史博物館名誉館長、（一財）大阪市文化財協会理事長）　10月17日　76名
- 学芸員によるスライドトーク　10月８日　５名、10月31日　16名、11月６日　28名、11月28日　25名

◇特別企画展「大阪町めぐり 喜連」
- 学芸員によるスライドトーク　２月５日　75名、３月６日　65名

◇特集展示「新発見！なにわの考古学2021」
- 「大阪の歴史を掘る2021」講演会（大阪市文化財協会と共催）
  「大阪市内の発掘調査について－令和２年度を中心に－」清水和明（大阪市文化財協会）、「天下人の城郭普請と『穴太』」中村博司氏（大阪城天守閣元館長）　11月20日　60名

●展示解説

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、展示会場における特別展・特別企画展・特集展示の展示解説および毎週土曜日と日曜日の常設展示解説の実施を見合わせ、スライドトーク、解説動画の公開を実施した。

“なにわ歴博”わくわく子ども教室事業

本事業は主に小学生・中学生を対象とし、土日祝日を中心に実施している。本年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため以下の事業のうち①～⑤は実施しなかった。⑥は感染対策を講じて実施した。

①和同開珎の拓本でしおりをつくろう
②手作りおもちゃで遊ぼう
③綿くり・糸つむぎ体験
④夏休みクラフト教室「近代建築ダンボールクラフト」
⑤考古学者になってみよう
⑥凧づくりと凧あげ　１月29日実施　９名

難波宮遺跡探訪

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施を見合わせた。また、復元倉庫公開も中止した。３月にYouTubeに解説動画をアップロードした。

謎解きゲーム・巡礼クイズ

●リアル謎解きゲーム「時をさまよう皇子と失われた都」

問題キットを受け取り、当館の内外で問題を解くイベントとして実施した。７月１日～令和４年３月末までの予定で開催したが、好評により、開催期間を令和４年12月まで延長した。

参加者1,710名

●リアル歴史巡礼クイズ「五代友厚と歩く　幕末・明治の大阪」

クイズを解きながら淀屋橋・北浜エリアから当館を目指すイベントとして11月１日から令和４年10月までの予定で実施した。

参加者136名

学習情報センター「なにわ歴史塾」

当館２階の無料空間内にある。開架図書約6,000冊の閲覧、学芸員による学習相談に応じた。新型コロナウイルス感染症拡大の状況を受け、映像ソフト約100件の閲覧、「昔の大阪」写真ライブラリー約7,000枚の閲覧は中止した。検索端末を利用した館蔵図書検索や大阪市内博物館・美術館ホームページ閲覧などのコーナーを用意し、市民の歴史学習を支援するとともに、利用案内リーフレットの作成、「なにわ歴史塾ブログ」・掲示板や新着図書コーナー・わくわく子ども教室コーナーの随時更新など、利用推進を図った。また今年度も司書を中心にして、特集展示開催などに合わせて、「花らんまん」(4/7～4/24)、「絵画でたのしむバードウォッチング」(6/21～7/12)、「オリンピックとスポーツの歴史」(7/14～8/30)、「物語絵の魅力」(9/1～10/18)、「大阪検定2021」(10/20～12/13)、「福よ、こいこい！縁起物！！」(12/15～1/10)、「北条義時が生きた時代～大河ドラマの世界を知ろう！！」(1/12～2/28)、「歴史に学ぶ防災～いざという時のために～」(3/2～3/28) の８回の特集を企画し、関連書籍を配架した。令和３年度の入室者数は11,067名、書庫出納件数は96件、複写利用件数は214件であった。

学校連携事業

学校教育との連携をはかるために、学校における進路学習のための職場体験学習等を受け入れている。また、大学からの博物館実習・見学実習を受け入れている。

●学校職員の研修の受け入れ

◇新規採用社会体験研修・学校職員研修

実施しなかった。

◇大阪市教員研修（主催：大阪市教育センター）

対象：大阪市立学校園教職員　50名

市立の校園に勤務する教員が大阪の歴史・文化への理解を深め、地域学習のための素材を提供するとともに大阪歴史博物館の活動を理解し利用を促進するために、大阪市教育センター主催の連携研修を実施した。今回は「コロナ禍における博物館資源の利活用－学習で“使える”大阪歴史博物館のコンテンツ－」と題して、当館が教育の現場に提供可能な大阪の地域学習に関わるコンテンツの紹介をおこなった。なお、開催予定日は令和３年８月６日であったが、同日は緊急事態措置がとられていたことから、開催を繰り延べ、10月に同センターからのオンライン配信によって実施された。また、本事業は大阪市博物館機構主催「教員のための博物館の日」を兼ねるものであった。

●学校団体（小中学校および高等学校）への教育支援および職業体験の受け入れ

７月８日　大阪府立高津高等学校　１年６名　職場訪問

９月６日　大阪市立南大江小学校　６年103名　出前授業

10月20・21日　大阪市立花乃井中学校　２年生２名　職業体験

３月９日　同志社中学校　１年生52名　授業協力のための学芸員派遣（オンライン）

そのほか、例年職業体験の依頼がある大阪市内の中学校１校からは依頼中止の連絡があった。

●考古学体験教室

これまで大阪市小学校社会科研究会の協力を得て、実施してきた事業であるが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施しなかった。

●博物館実習の受け入れ

博物館法および博物館法施行規則に基づく学芸員資格取得のための博物館実習は11大学42名を受け入れ、新型コロナウイルス感染症拡大防止に留意しつつ２期に分けて実施した。なお、公の施設における市民サービスの公平性および受益者負担の考え方から、実習に要する費用として１人あたり5,000円を徴収した。

◇８月23日～27日　大阪市立大学13名、甲南女子大学２名、同志社大学２名、佛教大学２名、立命館大学１名、大谷大学１名（計21名）

◇８月30日～９月３日　大阪大学13名、奈良大学４名、関西学院大学２名、京都橘大学１名、帝塚山学院大学１名（計21名）

◇見学実習は、大阪成蹊大学、関西大学、大阪樟蔭女子大学、近畿大学の４大学から合計73名（教職員５名を含む）を受け入れた。

ボランティア関連事業

大阪歴史博物館では、市民参加型の開かれた博物館活動の重要な事業の一つとして、ボランティアを導入している。この活動は自らの興味・経験・知識・技術などを活かして、社会に貢献する場を市民に提供するとともに、来館者へのサービスを向上させ、博物館活動を活性化させることを目的としている。令和３年度のボランティア登録者数は184名である。

●活動

新型コロナウイルス感染症拡大以前の当館でのボランティア活動では、「遺跡探訪・歴史を掘る班」による難波宮遺跡ガイドツアー、８階歴史を掘るコーナーでの案

内・説明、「スタンプラリー・ハンズオン班」によるスタンプラリーの補助、古代装束着付け体験、基壇の立体パズル、江戸時代の両替体験、扇による的当て体験、明治時代の双六体験、着物着付け体験を行ってきた。しかし、今年度についても前年度と同じく活動は休止したままで、再開することができなかった。

●研修

例年では当館特別展の見学研修、他館での見学研修、外部講師を招いての異文化理解・語学研修などを行ってきたが、今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため実施しなかった。一方、当館常設展を見学する自己研修についてはのべ64名、特別展が45名の利用があり、当館主催の講演会参加の自己研修についてはのべ107名が参加した。

なお、令和４年３月13日にZoomを使ってのオンライン研修会「大坂の近郊村落・喜連（きれ）」（講師：豆谷浩之）を実施し、ボランティア18名が参加した。

●ボランティア懇談会

新型コロナウイルス感染症拡大前はボランティアと博物館側の意思疎通を円滑にし、より良いボランティア活動を推進していく目的で例年懇談会を開催していたが、今年度も中止し、アンケートに切り替えた。

なお、令和４年２月23日にZoomを使ってのオンラインミーティングを実施し、ボランティア７名が参加した。

●ボランティアだよりの発行

コロナ禍で活動できない中で、ボランティアとの関係を保ち、館からの情報を発信できるよう、令和２年３月より『ボランティアだより』を発行し、各ボランティアに送付している。今年度は20号～34号を発行した。

●令和３年度ボランティアの次年度継続

今年度のボランティア登録者に次年度以降の継続意思を確認したところ、活動辞退者が10名あり、174名を令和４年度の登録者とした。

連携事業・大阪歴史博物館友の会との連携

博物館群等の連携事業

大阪市の博物館・美術館等の施設が連携し、大阪の魅力をアピールするための事業を実施した。前年に引き続き地方独立行政法人大阪市博物館機構事務局による推進体制をとり、当館もそれに参画した。

●ミュージアム連続講座2021「天文と歴史」

大阪市立難波市民学習センターにおいて３月13日から３週連続１日２講座（計６講座）を開催し、当館の俵 和馬が３月20日に「月と人－観月、盈虚、月光の民俗－」と題して講演した（参加者35名）。

●OSAKA MUSEUMS学芸員TALK＆THINK（Web開催）

大阪市博物館機構に属する６館の学芸員による連続講座に講師を派遣した。１月15日「加耶を歩く」寺井誠、１月22日「大阪の福祉と小学校」飯田直樹、１月30日「近世大坂周辺の村落－喜連地域を素材に－」豆谷浩之、２月19日「大阪歴史博物館と刀剣刀装具展示－刀剣ブームに至る道」内藤直子

●大阪フィルムアーカイブ計画　2021年度 収蔵・所蔵フィルム上映会（大阪中之島美術館、ミュージアム活性化実行委員会他と共催）

地域に眠る映像資源（8ミリ、9.5ミリ、16ミリフィルム等）を発掘すべく「大阪フィルムアーカイブ計画」を実施した。一般から４件(36巻)のフィルム提供があり、当館および協力機関の収蔵映像とともに、３月５日～12日に、８日間・７プログラムにおよぶ上映会を開催した（参加者計210名）。当館の船越幹央が歴史解説付き上映の一部を担当した。

●広報誌「Osaka Museums」

大阪市博物館機構内の６つの博物館・美術館と、機構と連携協定を結ぶ(一財)大阪市文化財協会の情報を掲載した広報誌17～20号が発行され、当館も情報を掲載した。

●教員のための博物館の日2021

大阪市博物館機構事務局が主催し、教員向けに大阪市内の博物館・美術館を紹介する「教員のための博物館の日」に例年参加している。本事業は大阪市教育センター主催の「大阪市教員研修」を兼ねるもので、今年度は８月６日に開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、10月にWeb開催となった（内容は大阪市教員研修を参照）。参加者は53名（うち大阪市教員研修50名）だった。

大学との連携事業

●キャンパスメンバーズ制度

大阪市博物館機構の取り組みの一環としてキャンパスメンバーズ制度を導入しており、本年度は大阪大学、大阪市立大学、大阪芸術大学、大阪府立大学、大阪国際滝井高等学校、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎、大阪府教育センター附属高等学校が会員となり、当館の年間利用者は順に574名、283名、194名、79名、16名、１名、０名であった。

●大阪市立大学との連携

大阪市博物館機構が法人として大阪市立大学と締結している包括連携協定事業に基づき実施される、下記の事業に参加した。大阪市立大学開講の博物館関連講義へ下記の学芸員を派遣した。

- 博物館経営論：大澤研一
- 博物館資料保存論：松本百合子、寺井 誠
- 博物館展示論：澤井浩一、豆谷浩之、村元健一、飯田直樹、阿部文和
- 博学連携講座（大阪市立大学文化交流センター）
  - 11月15日　岡本 健「発掘調査成果からみた大坂城と城下町」
  - 11月22日　島﨑未央「「油」を通してみる大坂と周辺地域」

●博学連携シンポジウム「おおさかを描く、おおさかで描く～大坂/阪 画壇再考～」（主催：大阪市立大学・大阪市博物館機構・大阪市文化財協会）

主催３者の包括連携協定企画として、３月５日に当館４階講堂で開催され（参加者79名）、当館から講師を派遣した。

- 報告 「大坂画壇研究の経緯と現状」中谷伸生（関西大学）、「近世大坂の写生画系の絵師について」岩佐伸一、「“大大阪”時代と葛藤する画家たち－近代

大阪画壇研究の課題」橋爪節也（大阪大学）、「『浪花百景』と上方浮世絵」菅原真弓（大阪市立大学）、「現代の美術と大阪－大阪中之島美術館のコレクション・活動を中心に－」清原佐知子（大阪中之島美術館）

- 討議　「『大坂／阪画壇』研究のこれから」

●同志社女子大学との連携（共催事業）

- ３月12日　同志社女子大学講座「人に寄り添う心～難波と京における歩み～」（同志社女子大学と共催）講演と展示観覧

地域・その他の連携事業

●JR西日本との連携

JR大阪環状線開業60周年キャンペーンの一環として、JR西日本と共同で８月から12月まで主要６駅（大阪、京橋、鶴橋、天王寺、新今宮、西九条）の歴史を解説するポスターを各駅の構内に掲出した。実施にあたっては、NPO法人まち・すまいづくりの協力を得た。

●NPO法人まち・すまいづくりとの連携

NPO法人まち・すまいづくりと共催で、日本凧の会大阪の協力のもと、なにわ歴博わくわく子ども教室「凧づくりと凧あげ」（１月29日）を実施した。また上記のJR西日本との連携事業のほか、あべのハルカス等での広報事業においても協力を得た。

●喜連村史の会との連携

市民団体「喜連村史の会」と共催で、特別企画展「大阪町めぐり　喜連」を開催した。（前掲参照）

●クラブツーリズムとの連携

10月１日、クラブツーリズムと包括連携協定を締結し、マイクロツーリズムをはじめとした旅行企画を定期的に開発、販売、実施した。

令和３年度には、聖徳太子没後1400年に因んだ企画を実施した。

「古代史１日学校in大阪歴史博物館」（10月30日）
「難波を目指した太子道へ」(12月11日、１月22日)
「聖徳太子について学ぶ大人の一日学校」（３月31日、あべのハルカス、四天王寺と連携）※アド近鉄と連携し、ハルカス300でのパネル展示にも協力した。

●サクヤコノハナとのアンバサダー契約

２月28日にアイドルユニット「サクヤコノハナ」とアンバサダー契約を締結し、愛称を「れきはくメイト」として各種イベントの企画開発を行った。

共催事業

講演会「渡来人と百済郡（大阪・生野）のかかわり」
（主催：なにわの宮リレーウォーク実行委員会）
「御勝山古墳のなぞ」積山 洋氏（大阪市文化財協会）
「古代の渡来人と百済郡」小田木富慈美氏（大阪市文化財協会）
11月21日　103名

「大阪歴史博物館友の会」との連携

「大阪歴史博物館友の会」は平成26年度以降、自主運営団体として活動している。当館からは役員として顧問を派遣しているほか、幹事会での助言や総会での講演、見学会への講師派遣を行ってきた。ただし今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、昨年度に引き続きすべての活動を休止した。令和３年度の会員数は、190名（家族会員を含む）であった。

令和３年度　普及事業の回数（日数）と参加者数

事業	個別事業名	回数	参加人数
教育普及事業	講座・見学会その他	16	945
	特別展・特集展示・常設展示、講演会・展示解説	14	758
	なにわ歴博　わくわく子ども教室事業	1	9
	石組み水路公開・AR難波宮	0	0
	難波宮遺跡探訪・復元倉庫の公開	0	0
学校連携事業	学校職員の研修の受入れ	1	50
	教育支援（職場訪問）	1	6
	教育支援（出前授業）	1	103
	教育支援（授業協力）	1	52
	職業体験	1	2
	博物館実習・見学実習の受入れ	6	115
地域・その他連携事業	共催事業ほか	1	103
ボランティア関連事業	ボランティア活動	0	0
合計		43	2,143

文化庁補助金による取り組み

令和３年度文化庁補助金事業「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」

平成30年度から５ヵ年計画で開始された事業で、今年度は４年目にあたる。実行委員会の構成団体は、当館および一般財団法人大阪市文化財協会・公益財団法人大阪国際交流センター・公益財団法人大阪観光局・地方独立行政法人大阪市博物館機構・大阪市立美術館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立自然史博物館・大阪中之島美術館・大阪市立科学館で、当館は中核館として参画した。

当館の関係では、大阪中之島美術館と共同で、大阪の映像発掘プロジェクトとして、市民からのフィルム募集とデジタル化、及びその映像を中心とした上映会を実施した。

令和２年度文化芸術振興費補助金「文化施設の感染拡大予防・活動支援環境整備事業」

当館では、配信等環境整備事業として、動画配信用機材およびネットワーク環境整備を実施し、感染対策事業として、ノータッチ式アルコールディスペンサー、パーティションを導入した。

展示等改修計画

展示改修基本構想の策定

平成13年（2001）の開館以来、これまで大きな改修を実施してこなかった当館の展示等について、関西・大阪万博開催の2025年を目途として改修計画を推進するため、「大阪歴史博物館展示改修基本計画」の策定作業を実施した。報告書は令和４年５月に完成した。

プロジェクト

●動画配信プロジェクト

インターネットを利用した当館の発信力を高めるため、動画配信プロジェクトを令和２年度に引き続き推進した。SNSで発信する動画制作の計画、講演会等のライブ配信計画を推進した。YouTubeチャンネルには、特別企画展、特集展示の解説動画、また新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止している難波宮遺跡解説の動画など16本を制作し、配信した。

ライブ配信設備については、文化庁補助金（文化施設の感染拡大予防・活動支援環境整備事業）を獲得し、４階の講堂・研修室等へのLAN設置工事や配信機材の整備を実施した。

●グッズ開発プロジェクト

魅力的なミュージアムグッズの開発・販売を推進するプロジェクトに取り組み、開館20周年を迎える11月を目標に製作を進めた。大手通販会社フェリシモとともに常設展に関連したユニークなグッズ開発を行い、難波京ピクニックシート、鴟尾ポーチ＆命婦礼服エコバッグ、新都・難波宮に集まった物産品ブローチ（３種類）、難波宮遷都に至る歴史にふれるお香（４種類）を製作し、当館ミュージアムショップ、当館オンラインショップ、及びフェリシモ（ピクニックシートを除く）で11月から販売した。また、館蔵品を活用したポストカード（20種類）、クリアファイル（４種類）、一筆箋（３種類）、マスキングテープ（３種類）を独自に製作し、11月から販売した。なお、新たな販売チャネルとして４月からBASEを利用した公式オンラインショップを立ち上げ、これまでに製作している図録、館蔵資料集、研究紀要、展覧会グッズも併せて販売を開始した。

●ユニークベニュープロジェクト

当館利用の新たな魅力開発、民間企業等との連携強化のため、ユニークベニュープロジェクトを令和２年度に引き続き推進した。当館独自のリアル謎解きゲーム「時をさまよう皇子と失われた都」、リアル歴史巡礼クイズ「五代友厚と歩く 幕末・明治の大阪」、旅行会社と連携したツアーを実施した。アイドルグループとアンバサダー契約を締結し、新たな来館者開拓を図るとともにライブ・イベント企画を実施した。

また、地元食品メーカー、小学校と連携し展覧会および関連行事の企画を推進した。

新型コロナウイルス感染症対策

令和３年度においても、３回目の緊急事態宣言を受け、４月25日から６月20日の間、臨時休館を余儀なくされた。

６月21日の再開館にあたっては、大阪市博物館機構のガイドラインに沿って、エントランスでの検温、手指の消毒の実施、館内の定期的な消毒、展示物に影響のない範囲での施設の抗菌・抗ウイルス加工（薬品）、展示導線の変更等の種々の感染症対策を実施した。

常設展示においても、ハンズオン展示の中止、接触が必要な展示物、展示端末等の機器類の使用中止・撤去を行った。また、オンラインチケットに加え、クレジットカード決済等のサービスを導入し、現金の取り扱い機会の抑制を図った。

特別展示室においても、３密防止のために人流センサーによる空間滞留人数を把握するとともに、入場制限を実施した。

講堂、研修室、会議室の利用については、使用定員を半数以下として当館行事や貸室を実施した。

広報宣伝活動

館の活動を広くPRし、来館者を誘致するため、報道各社や雑誌・情報サイト等各方面へ積極的に情報提供を行い、交通機関等への広告の掲出も行った。主要な活動は下記のとおりである。

定例広報事業

●情報提供

各方面からの問い合わせにともなう本年度の情報提供件数は、特別展・特別企画展関係が275件、特集展示関係が126件、館全体に関する内容・その他が80件であった。

●印刷物の発行

昨年度に引き続き、年間展示予定（１回）・英語版年間展示予定（１回）・なにわ歴博カレンダー（77～80号）を発行した。

その他の広報宣伝事業

●関西文化の日プラス2021

１月17日に実施し、常設展示の観覧料を無料とした。計236名の観覧者があった。

●ホームページの公開

ホームページでは特別展・特別企画展・特集展示の開催概要や出品資料などの情報と、各展覧会に関わる講演会をはじめとした関連イベントの案内情報を逐次公開しており、本年度は当館のホームページに476,335件、１日平均1,305件のアクセスがあった（前年度比で約59％）。また、１日の最大接続件数は3,444件（令和３年７月６日）であった。このほかに携帯電話を対象とするモバイルサイト（上記ホームページアクセス件数に含む、８月末で終了）や、外部サービスを利用した「なにわ歴史塾ブログ」を運用した。

●Twitterの公開

館の公式アカウントで展覧会、催事、トピックス等、日々の情報を発信した。今年度も新型コロナウイルス感染拡大を受けて、積極的な発信に努めた。ツイート数は919件、３月31日現在フォロワー数は7,870名である。

●YouTube公式チャンネルの公開

コロナ禍におけるオンライン発信強化のため、当館のYouTube公式チャンネルにおいて、展示解説などの動画を公開した。３月31日現在の登録者数は364名である。

刊行物

令和３年度は下記３件を刊行した。

●『大阪歴史博物館研究紀要　第20号』
Ａ４判109頁、令和４年３月

●『大阪歴史博物館館蔵資料集18　田中半治郎関係資料』
Ａ４判97頁、令和４年３月

●『共同研究成果報告書16』
Ａ４判106頁、令和４年３月

調査研究活動

大阪歴史博物館調査研究事業

調査研究事業は、年々高まる市民の方々の歴史に対する関心に応えるため、日常的な資料調査やテーマ研究を通じて成果を蓄積し、広く都市大阪の歴史的特質の解明に関わる検討を行うことを目的としている。とくに当館においては、難波宮の置かれた古代、商工都市として栄えた近世・近代の大阪の研究を重視して、「難波宮研究」および「大阪学研究」を課題とする。今年度は共同研究においては３テーマ、基礎研究においては２テーマを実施し、過去の課題の成果をまとめた『共同研究成果報告書16』を刊行した。但し今年度の調査研究については新型コロナウイルス感染症の拡大により一部の現地調査や研究会の開催に支障が生じた。各研究テーマは以下の通りである。

●共同研究

◇難波宮と東アジア都城の比較研究
担当：村元健一、李 陽浩
外部研究員：積山 洋（大阪市文化財協会）

◇中世後期の大阪市域における平地城館跡、環濠集落跡等の基礎的研究
担当：岡本 健、谷口正樹、大澤研一
外部研究員：松尾信裕

◇陶邑出土須恵器群の基礎調査
担当：安岡早穂、加藤俊吾
外部研究員：佐藤 隆（大阪市教育委員会文化財保護課）、児島大輔・杉谷香代子（大阪市立美術館）

●基礎研究

◇大阪と江戸、東京との都市比較史研究
担当：豆谷浩之

◇勝矢コレクションの研究
担当：内藤直子

科学研究費助成事業による研究

【研究代表者】

◇基盤研究（C）：李 陽浩
「先史～古代建築におけるゴヒラ材使用の歴史的解明」

◇基盤研究（C）：中野朋子
「藪明山の薩摩焼上絵付の技術革新と工房経営に関する研究」

◇基盤研究（C）：寺井 誠
「有文当て具痕跡から窺える律令国家成立前後の地方の主体性と対朝鮮半島交流の研究」

◇基盤研究（C）：内藤直子
研究分担者：岩佐伸一
「京金工・大月光興の研究－「文人金工」像の確立のために」

◇基盤研究（C）：澤井浩一
研究分担者：中野朋子
「『陶業時報』にみる大阪・瀬戸物町における陶磁器商の活動に関する研究」

◇若手研究：島﨑未央
「都市大坂を拠点とする油・植物の流通構造」

【外部機関の研究分担者】

◇基盤研究（A）：李 陽浩、村元健一
研究代表者：網 伸也（近畿大学）
「東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究」

◇基盤研究（B）：谷口正樹
研究代表者：仁木 宏（大阪市立大学）
「中世後期から近世初頭における武家拠点形成の研究」

◇基盤研究（C）：飯田直樹
研究代表者：大杉由香（大東文化大学）
「子どもの命と人権に関する地域史研究－近世・近代・現代社会の連続面と断続面を考える」

◇基盤研究（C）：杉本厚典
研究代表者：南 秀雄（大阪市文化財協会）
「大阪中心部における５～17世紀の治水・水防遺構と都市形成過程の研究」

◇挑戦的研究（萌芽）：岩佐伸一
研究代表者：井上智勝（埼玉大学）
「東アジアにおける影幀を用いた人霊祭祀研究に対する方法論の構築」

個人の調査研究活動

●大澤研一

• 専門分野

(1) 日本中世史、大阪地域史

(2) 都市史・中世史

(3) 都市的集落の形成と変容過程・空間構造、経済・宗教機能、対外交流について

• 著述

『モブなのにすごいことしちゃった！日本史の偉人たち』(監修)、朝日新聞出版、令和３年８月

「大坂冬の陣の激戦地、今福・鴫野をめぐる」「「浜路」でたどる中世の大坂」「阿倍野から住吉へ－熊野街道界隈を訪ねて－」「淀川流路改修の跡をたどる」「岸和田城下町から貝塚寺内町へ」仁木宏・磐下徹編著『歴史家の案内する大阪』、文理閣、pp.26-31、43-49、57-69、214-220、令和３年10月

「豊臣後期大坂の武家屋敷について－二ノ丸および上・下屋敷を中心に」仁木宏編著『戦国・織豊期の地域社会と城下町 西国編』戎光祥出版、pp.31-56、令和３年11月

「平安時代の四天王寺」「中世の四天王寺」「近世の四天王寺」石川知彦監修・和宗総本山四天王寺編集『聖徳太子と四天王寺』法蔵館、pp.69-80、123-138、191-204、令和３年11月

「大阪城－三層重ねの歴史をたどる－」『近畿文化』856号、近畿文化事務局、pp.1-3、令和３年12月

「史料紹介　柳河藩立花家文書にみえる近世初期大坂町人」『大阪歴史博物館研究紀要』第20号、pp.19-28、令和４年３月

『朝鮮通信使と大阪』39.「枚方までのぼってきました！」、40.「川御座船の終着地、淀」、41.「金漢重と竹林寺」、42.「崔天宗殺害事件１－その顛末－」、43.「崔天宗殺害事件２－「唐人殺し」と大坂－」、44.「まぼろしの大坂聘礼１－通信使が大坂を目指した日々－」、45.「まぼろしの大坂聘礼２－大坂で計画された迎接とは－」、46.「金義信筆と伝えられる四天王寺の下馬石」駐大阪韓国文化院ホームページ、令和３年５月～令和４年３月

• 口頭発表

「歴史講座　明智光秀は何故、信長を裏切ったのか」平野区画整理記念会館、令和３年６月

「明智光秀の足跡と人物像」大阪鶴見ライオンズクラブ、大阪迎賓館、令和３年７月

「なるほど大阪の歴史－地名深読みの愉しみ－」近畿文化会企画・歴史街道倶楽部協力：歴史・文化セミナー、近鉄文化サロン阿倍野、令和３年８月

「信長を苦しめた大坂本願寺、そして石山合戦（大坂本願寺戦争)」シニアCITYカレッジ文学・歴史Ｉコース、NPO法人シニア自然大学校、プリムローズ大阪・北御堂ミュージアム、令和３年10月

「館長講演会　細川ガラシャと大坂」大阪歴史博物館、令和３年11月

「歴史に学ぶ平野郷－在地都市の歩みと魅力－」大阪府高齢者大学校　大阪の史跡探訪科、NPO法人大阪府高齢者大学校、大阪府社会福祉会館、令和３年11月

「入門臨地講座　大阪城－三層重ねの歴史をたどる－」近畿文化会、大阪歴史博物館、令和３年12月

「なにわ歴博講座 大阪の戦国を考える　戦国の重要戦略拠点・木津－大坂本願寺戦争と大坂の陣－」大阪歴史博物館、令和３年12月

「日本遺産 龍田古道・亀の瀬学べるシンポジウム　龍田古道と聖徳太子（日本の都市の始まりを解く)」日本遺産「龍田古道・亀の瀬」推進協議会、クールジャパンパーク大阪（TTホール)、令和４年２月

「郷土の歴史講演会　戦国時代の都市と池田」池田古文書研究会、池田コミュニティセンター、令和４年２月

「中世久米田寺の役割－『久米田寺文書』を中心に－」岸和田市立図書館友の会、岸和田市八木市民センター、令和４年３月

「聖徳太子について学ぶ大人の１日学校　聖徳太子」と大阪（難波)」クラブツーリズム、大阪歴史博物館、令和４年３月

• 調査活動

融通念仏関係資料調査　令和３年６月

共同研究「中世後期の大阪市域における平地城館跡、環濠集落跡等の基礎的研究」に伴う市内城館跡・環濠集落跡の現地調査

• その他

「ちょっといい話」出演、朝日放送ラジオ、令和３年６月、８月

「関西のミカタ」日本経済新聞、令和３年９月

「朝鮮王朝「屏風」大阪からNYへ」コメント、朝日新聞、令和３年11月

「英雄たちの選択　信長最大の敵・大坂本願寺～激突！木津川口の戦いの真実～」出演、NHK、令和４年１月

●澤井浩一

• 専門分野

(1) 畿内村落における祭祀組織の研究

(2) 近畿地方を中心とした芸能史研究

(3) 大正・昭和初期の大阪における興行史の研究

• 著述

「だいがく祭」『山・鉾・屋台の祭り研究事典』、思文閣出版、令和３年４月

「座談会　博物館人としての酒井さん」(共著)「あとがき」『酒井一光論考集　建築学芸員のまなざし』青幻舎、令和３年10月

「コレクション　文楽人形首　傾城」『博物館研究』642号、日本博物館協会、令和３年10月

「市川さんの『広場』研究」『記念誌 市川秀之先生還暦記念 日本民俗学講習会』、令和４年３月

• 調査活動

令和３年度中　『陶業時報』資料調査（撮影）

• その他

大阪府公文書館運営懇談会委員　令和３年12月16日

●船越幹央
• 専門分野
(1) 日本近代史、文化史
(2) 近代都市における市民生活・文化・意識の研究
(3) 大阪・京都を中心とした市民文化の研究
• 著述
「Osaka再発見　国宝・重要文化財１　泉布観」大阪歯科保険医新聞、令和３年６月
「大阪歴史博物館×大阪環状線コラボ企画　大阪環状線 各駅のあゆみ」(大阪、京橋、鶴橋、天王寺、新今宮、西九条の各駅) JR大阪環状線駅貼りポスター、令和３年８月
「座談会　博物館人としての酒井さん」(共著)『酒井一光論考集　建築学芸員のまなざし』青幻舎、令和３年10月

●豆谷浩之
• 専門分野
(1) 日本近世史、近世考古学　(2) 近世都市史
(3) 武家の大坂屋敷と都市建設の関係、大坂と江戸の都市比較
• 調査活動　喜連村関係古文書調査
大阪大学文学研究科　令和３年９月13日
関西大学図書館　令和３年11月12日
関西大学博物館　令和３年11月29日

●松本百合子
• 専門分野
(1) 考古学　(2) 仏教美術史、近世製油業の研究
(3) 近世貿易陶磁の研究
• 調査活動
滋賀県立安土城考古博物館情報交換会「展示・収蔵環境における有害物質対策について」で展示環境問題の調査　令和３年11月２日
滋賀県立琵琶湖博物館で展示設備・ハンズオン実施状況の調査　令和３年７月４日
• その他
「聖徳太子1400年御聖忌記念　聖徳太子を知ろう！In てんしば」「聖徳太子巡礼の道　七つの謎トークショー」講師　令和３年10月10日
クラブツーリズム「難波を目指した太子道へ」講師　令和３年10月30日・12月11日、令和４年１月22日
ＮＨＫ大阪放送局「ぐるっと関西おひるまえ」「リアル歴史巡礼クイズ　五代友厚と歩く幕末・明治の大阪」紹介　令和３年12月15日

●杉本厚典
• 専門分野
(1) 日本考古学
(2) GIS考古学、産業マップ、弥生土器・土師器の編年研究
• 著述
『特別展展示ガイドブック　難波をうたう－万葉集と考古学－』、大阪歴史博物館、令和３年10月
• 口頭発表
「徳島吉野川下流域新島庄の位置推定」(築堤（潮堤）灌漑復元についての考察)、「大阪中心部における５～17世紀の治水・水防遺構と都市形成過程の研究」(研究代表者：南 秀雄) 第５回研究会、財団法人大阪市文化財協会、令和３年５月５日
• その他
NHK大阪放送局 「関西ラジオワイド／旬の人・時の人」「万葉集にうたわれた難波」 令和３年10月１日
NHK大阪放送局 「ぐるっと関西おひるまえ」「特別展難波をうたう－万葉集と考古学－」 令和３年11月17日

●岩佐伸一
• 専門分野
(1) 美術史　(2) 日本絵画史
(3) 江戸時代後期の上方の絵画
• 口頭発表
「京都と大坂の四条派絵師－江戸時代後期を中心に」中之島香雪美術館、令和３年７月18日
「江戸時代の動物絵画にみる深意－京都と大坂を中心に－」 武庫川女子大学、令和３年11月25日
「近世大坂の写生画系の絵師について」 大阪市立大学・大阪市博物館機構・大阪市文化財協会　包括連携協定企画　博学連携シンポジウム「おおさかを描く、おおさかで描く ～大坂／阪 画壇再考～ 」 大阪歴史博物館、令和４年３月５日
• その他
北島古美術研究所『日本近世美術研究』第４号所載論文の査読

●俵 和馬
• 専門分野
(1) 民俗学　(2) 環境民俗学
(3) 自然観、生業、民具
• 著述
「嘉永四年の紀年銘を有する京屋唐箕について」『大阪歴史博物館研究紀要』第20号、大阪歴史博物館、pp.55-63、令和４年３月
• 口頭発表
「都市と農村～大阪周辺の環境と生業」(全３回)、南大江会館、令和３年６月29日・７月27日・８月24日
「博物館概論」ゲストスピーカー（オンライン開催)、近畿大学文芸学部、令和３年５月25日
「民具調査講習－見方・実測のキホン」近畿大学民俗学研究所、令和３年７月13日
「籠もりの山、入らずの森－霊山・生駒と環境の交渉－」生駒ふるさとミュージアム、令和３年10月17日
「民具、民俗について」いこま寿大学、生駒ふるさとミュージアム、令和３年11月４日
「絵馬、その歴史と心意－高神社の大絵馬から－」帝塚山大学附属博物館(オンライン開催)、令和３年11月20日
「生駒山地の環境民俗」近畿大学民俗学研究所、令和３年11月30日
「月と人－観月、盈虚、月光の民俗－」ミュージアム連続講座2021「天文と歴史」、大阪市立難波市民学習

センター、令和４年３月20日
・調査活動
大東市の踏車調査
令和３年７月８日、８月26日、12月４日、令和４年２月16日

●加藤俊吾
・専門分野
(1) 考古学、考古学史、博物館史
(2) 金属器生産に関わる研究
(3) 古代～近世における鋳鏡研究

●李 陽浩
・専門分野
(1) 建築史、都市史
(2) 古代東アジア建築史
(3) 建築技法からみた難波宮の復元的研究
・著述
「接地面積からみた東大寺大仏殿の変遷」、『日本建築学会大会学術講演梗概集 建築歴史・意匠2021』、日本建築学会、pp.843-844、令和３年９月
・口頭発表
「古代難波の地形・地割と寺院との関係性についてのノート」、東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究、金沢大学西町メディアセンター、令和３年11月７日
「難波宮・京の祭祀空間に関するノート：造営と水辺の観点から」、東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究、中央大学（オンライン）、令和４年２月27日
「高津宮の位置をめぐって：堀江開削記事の一解釈」、都城制研究会、大阪歴史博物館、令和４年３月19日

●岡本 健
・専門分野
(1) 日本考古学　(2) 中世・近世の考古学
(3) 戦国・織豊期における造瓦活動・城郭の研究
・著述
「近世・近畿」『考古学ジャーナル』No.755（岡本 健・市川 創分担執筆）、ニューサイエンス社、pp.113-115、令和３年６月
「阿波勝瑞城館跡出土瓦について－戦国期天王寺瓦工の特質解明に向けて(2)－」『大阪歴史博物館研究紀要』20号、pp.41-53、令和４年３月
・口頭発表
「発掘調査成果からみた大坂城と城下町」博学連携講座「近世都市大坂像の新展開」大阪市立大学主催、大阪市立大学文化交流センター、令和３年11月15日
「戦国期四天王寺の瓦職人」なにわ歴博講座「大阪の戦国を考える」大阪歴史博物館、令和３年12月５日
「考古資料としての瓦」令和３年度勝瑞学講座～出土遺物が語る勝瑞の歴史Ⅰ～、藍住町教育委員会主催、藍住町総合文化ホール、令和４年１月15日
・調査活動
大阪歴史博物館調査研究事業・共同研究「中世後期の大阪市域における平地城館跡、環濠集落跡等の基礎的研究」により、共同研究チームで下記の巡見を行った。
野田城跡伝承地、福島(福島区)巡見　令和３年７月19日
榎並城跡伝承地（城東区）巡見　令和３年９月17日
堀城跡伝承地、三津屋城跡伝承地、堀上環濠集落（淀川区）巡見　令和３年11月26日
寺岡砦跡、新堀城跡伝承地（住吉区）巡見　令和４年１月28日
桑津環濠集落（東住吉区）巡見　令和４年３月４日

●飯田直樹
・専門分野
(1) 歴史学　(2) 日本近現代史
(3) 都市史、社会福祉史
・著述
「書評：石月静恵・大阪女性史研究会編著『女性ネットワークの誕生　全関西婦人連合会の成立と活動』」『歴史と経済』252号、pp.47-49、令和３年７月
単著『近代大阪の福祉構造と展開 －方面委員制度と警察社会事業－』部落問題研究所、全353頁、令和３年12月
「近代大阪に生きた人びと －拙著『近代大阪の福祉構造と展開－方面委員制度と警察社会事業－』より－」『都市・周縁〈史料と社会〉科研NL』第19号、pp.4～９、令和３年12月
「大阪のまちの形成と“相撲”の縁を紐解く」『上町台地今昔フォーラム』16、pp.4～６、令和３年12月
「方面委員創設の意義と大阪の社会事業」『Wellおおさか」第46号、pp.1～４、令和４年２月
『大阪歴史博物館館蔵資料集18　田中半治郎関係資料』大阪歴史博物館、全97頁、令和４年３月
・口頭発表
「日本から見たオスマン帝国の都市社会と近代化」大阪歴史科学協議会2021年４月例会「19世紀オスマン帝国の都市社会史 －日本との比較を通じて考える－」、オンライン開催、令和３年４月24日
「方面委員創設の意義と大阪の社会事業」令和３年度大阪府民生委員児童委員大会記念講演、オンライン開催、令和３年８月１日
「大阪のまちの形成と“相撲”の縁を紐解く」2021年秋の上町台地ダイアローグナイト、NEXT21、令和３年10月11日
「近代日本福祉の小学校依存とその克服－セツルメント再考－」、論文集『戦間期日本とヨーロッパにおける「子どもの権利」（仮称）』研究会、オンライン開催、令和３年11月20日
「近代大阪における露天託児実践の源流－部落事務員の活動に注目して－」、近世・近代の「子ども福祉」科研報告会、オンライン開催、令和３年12月23日
「大阪の福祉と小学校」、OSAKA MUSEUMS 学芸員TALK&THINK、アートエリアＢ１、令和４年１月22日
「大阪府方面委員の活動と「住まい」」、青山学院大学総合研究所ユニット研究「住宅政策・構想が地域社

会に与える影響に関する史的研究」研究会、オンライン開催、令和４年２月20日
「近代大阪の福祉と医療」、同志社女子大学連携講座、大阪歴史博物館、令和４年３月12日
・その他
日本博物館協会１号表彰　令和３年11月17日
国立公文書館認証アーキビスト　令和４年１月１日

●阿部文和
・専門分野
（1）建築史
（2）建築儀礼と棟札に関する研究

●谷口正樹
・専門分野
（1）日本中世史
（2）都市史、地域社会論
（3）戦国期地域社会構造の変容過程
・著述
「大阪再発見　国宝・重要文化財⑤　綾本墨書明王贈豊太閤冊封文（重要文化財）」大阪歯科保険医新聞、令和４年２月25日
・口頭発表
「なにわ歴博講座「大坂の戦国を考える」 安芸の殿様、大坂へ行く－『毛利輝元上洛日記』からみる豊臣時代の大坂－」大阪歴史博物館、令和３年12月19日
「中世の「ふじいでら」－「みち」を基本に歴史を考える－」大阪府民カレッジ富田林校、富田林市市民会館、令和４年２月25日
・調査活動
北島国造館での「北島家文書」調査、令和３年８月26日～８月28日
共同研究「中世後期の大阪市域における平地城館跡、環濠集落跡等の基礎的研究」に伴う市内城館跡・環濠集落跡の現地調査

●内藤直子
・専門分野
（1）京金工の研究
（2）京後藤家の研究
（3）近代大阪の工芸史研究
・講演会等
連続講座 「初めての刀装具」（令和３年４月３日、５月29日、６月４日、７月３日、８月７日）京都よみうり文化センター
連続講座 「刀装具のデザインを読む」（令和３年10月12日、11月９日、12月14日）よみうり天満橋文化センター
・文化財保護活動等
文化庁文化審議会専門委員（第四部会）
文化庁文化財研修事業（伝統工芸・文化財保存技術）企画選定委員会委員
日本美術刀剣保存協会主催 「現代刀職展」審査員
日本刀文化振興協会主催 「新作日本刀研磨外装刀職技術展」審査員
全日本刀匠会主催「お守り刀展覧会」審査員
福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館複製品制作指導監修

●村元健一
・専門分野
（1）歴史学
（2）古代の日中交渉
（3）難波宮と中国都城との比較研究
・著述
「長安周辺の西魏・北周墓群について」『郵政考古紀要』第75号、pp.14-45、令和３年12月
・口頭発表
「南北朝時代における都城と仏教寺院のかかわりについて」東アジア古代都城と都市網の宗教空間に関する総合的・比較史的研究、近畿大学（オンライン）、令和３年８月29日
「都城史における曹魏洛陽の画期性」シンポジウム「東アジア比較都城史研究の今」、中央大学（オンライン）、令和４年３月27日

●島﨑未央
・専門分野
（1）日本近世史
（2）都市史、村落史、流通社会史
（3）灯明油の生産と流通
・著述
Post-Restoration Transformations and Merchant Guilds: The Oil Seed Merchants of Osaka, Routledge Studies in the Modern History of Asia, Nov 2021
・口頭発表
「株仲間再興後の大坂における油の生産と流通構造－摂津国遠里小野村を例に－」、大阪歴史学会大会、令和３年６月21日
「「油」を通してみる大坂と周辺地域」、博学連携講座、令和３年11月22日
・調査活動
学術研究助成基金助成金（若手研究　20K13191）「都市大坂を拠点とする油・種物の流通構造」により、関西を中心に調査や資料の収集を行った。

●寺井 誠
・専門分野
（1）考古学
（2）日本列島と朝鮮半島の交流史
（3）タタキメ・当て具痕跡を基にした土器製作技法比較
・著述
「馬韓からこんにちは～船出遺跡で出土した栄山江流域の陶質土器～」『葦火』第202号　大阪市文化財協会、p.8、令和３年７月
「当て具痕跡を基にした統一新羅からの搬入土器認定のための試論」『大阪歴史博物館研究紀要』第20号　大阪歴史博物館、pp.1-20、令和４年３月
「第24回研究集会参加記」『中四研だより』第49号　中四国前方後円墳研究会、pp.18-19、令和４年３月

• 口頭発表
「加耶を歩く」『OSAKA MUSEUMS 学芸員TALK＆THINK』地方独立行政法人大阪市博物館機構、令和４年１月15日
• 調査活動
科学研究費補助金（基盤研究（C）19K01106「有文当て具痕跡から窺える律令国家成立前後の地方の主体性と対朝鮮半島交流の研究」）により各地で資料調査を行った。主たる調査は以下の通り。
斎宮跡出土の異形当て具痕跡のある須恵器甕（斎宮歴史博物館）、令和３年10月28日
伊賀国府跡（上野市）出土の 木製当て具（三重県埋蔵文化財センター）、令和３年10月28日
牛頸窯跡群・乙金遺跡群出土土器（大野城市教育委員会）、令和３年11月10・11日
美濃須衛窯群出土の土製当て具（各務原市教育委員会・岐阜市歴史博物館）、令和３年12月17日

●中野朋子
• 専門分野
（1）美術史・服飾史
（2）近代工芸史、近世服飾史
（3）近代大阪の陶業史研究、近世後期の京坂における服飾・風俗動向の研究
• 著述
「藪明山と「精良薩摩陶器商　平瀬與一郎」」、『大阪歴史博物館 研究紀要』第20号、大阪歴史博物館、pp.(1)－(18)、令和４年３月
• 口頭発表
「大阪の豪家と文化事業」、埼玉大学教養学部ミュージアム・カレッジ2021「渋沢栄一とその時代」、埼玉県立歴史と民俗の博物館、令和３年12月
• 調査活動
科学研究費補助金（基盤研究(C)　19K00209 「藪明山の薩摩焼上絵付の技術革新と工房経営に関する研究」）により、大阪、京都、奈良で調査を行った。
科学研究費補助金（基盤研究(C)　21K01074 「『陶業時報』にみる大阪・瀬戸物町における陶磁器商の活動に関する研究」）により、愛知で調査を行った。
公益財団法人 出光文化福祉財団、令和元年調査・研究助成「「陶業時報」のデジタルアーカイブによる近代陶磁器に関する研究」により、大阪で調査ならびにアーカイブ事業を行った。
• 教育活動
大阪藝術大学「服飾史」非常勤講師

●安岡早穂
• 専門分野
（1）考古学
（2）前近代の漁撈活動、食文化にかかわる研究
• 調査活動
大阪市内出土の漁撈具の調査　令和４年２月10日

受嘱・派遣・視察

受嘱

期間	内容	担当者
令和２年５月29日～令和４年３月31日	大阪商工会議所　大阪検定委員	大澤研一

派遣依頼対応

日付	派遣先	担当者
7 /21	大阪鶴見ライオンズクラブ講演会	大澤研一
9 / 6	大阪市立南大江小学校	寺井 誠
9 /15	大阪市立野田小学校	大澤研一
9 /30	大阪市建設局「竹内街道・横大路まつり」歴史講演会	澤井浩一
11/ 3 、11/18	NPO法人多文化福祉センターCAMICA	杉本厚典
12/12、12/15	歴史街道推進協議会 歴史見学会	船越幹央
2 /13	NPO法人多文化福祉センターCAMICA	豆谷浩之
3 / 2	特定非営利活動法人シニア自然大学校	村元健一
3 /19	大阪市経済戦略局	阿部文和
3 /22、 3 /26	歴史街道推進協議会 歴史見学会	船越幹央

視察受入

受入なし

令和３年度大阪歴史博物館入場者数

月	令和３年度　常設展					令和３年度　特別展					合計	その他入場
	有料		有料計	無料	常設展計	有料		有料計	無料	特別展計		
	一般	高・大生				一般	高・大生					
4	1,664	165	1,829	1,027	2,856	0	0	0	0	0	2,856	589
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	540	147	687	218	905	0	0	0	0	0	905	169
7	5,156	862	6,018	3,600	9,618	22,286	1,749	24,035	5,813	29,848	39,466	3,499
8	3,823	715	4,538	2,336	6,874	12,108	1,892	14,000	3,953	17,953	24,827	1,864
9	1,940	249	2,189	970	3,159	0	0	0	0	0	3,159	464
10	3,129	382	3,511	4,517	8,028	930	82	1,012	4,120	5,132	13,160	1,151
11	3,549	573	4,122	6,666	10,788	1,246	129	1,375	7,237	8,612	19,400	1,252
12	2,623	362	2,985	4,024	7,009	307	39	346	1,768	2,114	9,123	858
1	2,174	191	2,365	2,548	4,913	0	0	0	0	0	4,913	600
2	2,451	326	2,777	1,459	4,236	0	0	0	0	0	4,236	780
3	3,617	446	4,063	2,718	6,781	0	0	0	0	0	6,781	854
合計	30,666	4,418	35,084	30,083	65,167	36,877	3,891	40,768	22,891	63,659	128,826	12,080
									総合計		140,906	

※その他入場には、２・４階貸室利用者数、４階講堂での各種講演会・イベント参加者数などが含まれる。
※令和３年８月10日　臨時開館
※令和３年４月25日～令和３年６月20日　新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館

利用規程

大阪歴史博物館利用規程
制定　平成31年４月１日

（趣旨）
第１条　大阪歴史博物館（以下「博物館」という。）の利用に関しては、この規程の定めるところによる。
（休館日）
第２条　博物館の休館日は、次のとおりとする。
(1)　火曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その日後最初に到来する休日以外の日）
(2)　12月28日から翌年１月４日まで
２　前項の規定にかかわらず、博物館の館長（以下「館長」という。）は、博物館の設備の補修、点検若しくは整備、天災その他やむを得ない事由があるとき又は博物館の効用を発揮するため必要があるときは、事前に又は速やかに理事長の承認を得て同項の規定による休館日を変更し、又は臨時の休館日を定めることができる。
３　館長は、前項の休館を行う場合、事前に又は速やかにその内容を公告しなければならない。
（供用時間）
第３条　博物館の供用時間は、午前９時30分から午後５時までとする。
２　前条第２項及び第３項の規定は、博物館の供用時間について準用する。この場合において、同条第２項中「前項」とあるのは「第３条第１項」と、「休館日を変更し、又は臨時の休館日を定める」とあるのは「供用時間を変更する」と、同条第３項中「前項」とあるのは「第３条第２項の規定により読み替えられた第２条第２項」と読み替えるものとする。
（使用の許可）
第４条　別表第１に掲げる博物館の施設（以下「施設」という。）を使用しようとする者は、館長の許可を受けなければならない。
（使用許可の制限）
第５条　次の各号のいずれかに該当するときは、館長は、施設の使用を許可しない。
(1)　公安又は風俗を害するおそれがあるとき
(2)　建物、設備又は展示品等を損傷するおそれがあるとき
(3)　管理上支障があるとき
(4)　暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成３年法律第77号）第２条第２号に規定する暴力団の利益になるとき
(5)　その他不適当と認めるとき
（使用許可の取消し等）
第６条　次の各号のいずれかに該当するときは、館長は、施設の使用の許可を取り消し、その使用を制限し、若しくは停止し、又は退館を命ずることができる。
(1)　偽りその他不正の手段により第４条の許可（以下「使用許可」という。）を受けたとき
(2)　前条各号に定める事由が発生したとき
(3)　この規程に違反し、又はこの規程に基づく指示に従わないとき
（意見の聴取）
第７条　館長は、必要があると認めるときは、第５条第４号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くよう理事長に求めるものとする。
２　理事長は、前項の規定による求めがあったときは、第５条第４号に該当する事由の有無について、大阪府警察本部長の意見を聴くことができる。
（入館の制限）
第８条　館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を断り、又は退館させることができる。
(1)　他人に危害を及ぼし、又は迷惑となる行為をするおそれがある者
(2)　建物、設備又は展示品を損傷するおそれがある者
(3)　他人に危害を及ぼし、若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者
(4)　管理上必要な指示に従わない者
(5)　その他管理上支障があると認める者
（特別観覧の許可）
第９条　博物館等資料について特別の観覧をしようとする者は、館長の許可を受けなければならない。
２　特別の観覧に関する手続きについては、別に定める。
（貸出しの許可）
第10条　博物館等資料の貸出しを受けようとする者は、館長の許可を受けなければならない。
２　博物館等資料の貸出しに関する手続きについては、別に定める。
（利用料金）
第11条　博物館を観覧し、又は施設及びその附属設備を使用しようとする者は、館長に利用料金を支払わなければならない。ただし、学校教育法（昭和22年法律第26号）第17条第１項に定める小学校就学の始期に達しない者、小学校（これに準ずるものを含む。）の児童及び中学校（これに準ずるものを含む。）の生徒に係る観覧料については、この限りでない。
２　利用料金の額は、次の各号に掲げる区分に応じ、当該各号に定める金額の範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。利用料金の額を変更しようとするときも、同様とする。
(1)　観覧料　１人１回につき別表第２に掲げる金額
(2)　施設使用料　別表第１に掲げる金額（施設の附属設備については、別に定める種別に応じて館長が要項で定める金額）
３　日曜日、土曜日及び休日における施設の使用に係る施設使用料の額は、前項の規定による金額の２割増しの範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。
４　施設の使用許可を受けた者（以下「使用者」という。）が入場料その他これに類する料金を徴収する場合における施設の使用に係る施設使用料の額は、前２項の規定による金額の５割増しの範囲内において、館長があらかじめ理事長の承認を得て定める。当該施設使用料の額を変更しようとするときも、同様とする。
５　理事長は、前３項の承認（貸出し料の額に係るものを除く。）を行ったときは、速やかに当該承認を行った利用料金の額を公告するものとする。

6　館長は、公益上の必要その他特別の事由があると認めるときは、別に定める要項に基づき、利用料金を減額し、又は免除することができる。
7　館長は、次の各号のいずれかに該当するときは、既納の利用料金の全部又は一部を還付することができる。
(1)　災害その他使用者の責めに帰すことのできない特別の事由により施設を使用することができなくなったとき
(2)　使用者が施設の使用を開始する前に使用許可の取消しを申し出た場合において、館長がその理由を相当と認めて当該使用許可を取り消したとき
(3)　その他館長が特別の事由があると認めるとき

(特別設備)
第12条　使用者は、館長の許可を受け、特別の設備をすることができる。
2　館長は、使用者に対して必要な設備をすることを命ずることができる。
3　使用者が前第１項、第２項の規定により、特別の設備をしたときは、使用後直ちにこれを撤去して、原状に復さなければならない。

(損害の賠償及び事故の責任)
第13条　博物館を観覧する者又は施設の使用の許可を受けた者が建物、設備又は博物館等資料を損傷し、又は亡失したときは、理事長の定めるところに従い、これを原状に復し、又はその損害を賠償しなければならない。
2　使用者は、使用に関して生じた一切の事故につき、その責めを負うものとする。

附　則
(施行期日)
1　この規程の施行期日は、平成31年４月１日とする。
2　本規定の施行前に納付された利用料金については、なお従前の例による。

別表第１（第４条、第11条関係）

区分	施設使用料
講　　堂	１室１日につき　36,000円
第１研修室	１室１日につき　15,200円
第２研修室	１室１日につき　8,200円
第１会議室	１室１日につき　7,500円
第２会議室	１室１日につき　7,000円
第３会議室	１室１日につき　7,300円
特別展示室	１室１日につき　96,800円

別表第２（第11条関係）

区分		観覧料	団体（20人以上）観覧料
常　設展示室	高等学校、高等専門学校、大学及びこれらに準ずる教育施設に在学する者	400円	360円
	その他の者	600円	540円
特　別展示室	高等学校、高等専門学校、大学及びこれらに準ずる教育施設に在学する者	1,600円	1,440円
	その他の者	2,400円	2,160円

運営組織

大阪歴史博物館は、大阪市が設立する地方独立行政法人大阪市博物館機構が設置し、管理運営を行う。

組織

館　長	大澤研一		
副館長	間嶋 淳（大阪市博物館機構事務局長）		
総務課	課　　長	佐藤周平	
	係　　長	羽室有加里	
	主　　任	山本幸恵	
	係　　員	川端優子	樋口祥子
		加藤晶子	西村安希子
		尾崎雄二	小川泰伸
企画広報課	課　　長	船越幹央	
	企画広報係	係　　長	杉本厚典
		主任学芸員	岩佐伸一
		係　　員	俵 和馬
			柴田晃子
	情報資料係	係　　長	加藤俊吾
		主任学芸員兼学芸課担当係長	李 陽浩
		係　　員	岡本 健
			小林佳美
			宮下愛子
研究主幹	豆谷浩之		
学芸課	課　　長	澤井浩一	
	課長代理	松本百合子	
	学芸第１係	係　　長	松本百合子（兼務）
		主任学芸員	飯田直樹
		係　　員	阿部文和
			谷口正樹
	学芸第２係	係　　長	内藤直子
		主任学芸員兼学芸課担当係長	村元健一
		係　　員	島﨑未央
	学芸第３係	係　　長	寺井 誠
		主任学芸員	中野朋子
		係　　員	八木 滋
			安岡早穂

人事

転　　入（令和３年４月１日）	
副　館　長	間嶋 淳
退　　職（令和３年４月25日）	
学　芸　課　係　員	八木 滋
転　　出（令和４年２月10日）	
副　館　長	間嶋 淳
退　　職（令和４年３月31日）	
総　務　課　主　任	山本幸恵

大阪歴史博物館年報　令和３年度
令和４年10月20日発行Ⓒ

編集・発行　大阪歴史博物館
〒540-0008 大阪市中央区大手前４丁目1-32

印刷・製本　丸山印刷株式会社
〒530-0042 大阪市北区天満橋1-4-16

ANNUAL REPORT
of
Osaka Museum of History
Oct. 2022